

0001 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：基礎

建築物における清掃の目的として最も適切なものはどれか。

- ア. 汚れを除去し、清潔性・衛生性・美観・建材の保全を図る。
- イ. 床面の光沢を最大にすることだけを目的とする。
- ウ. 汚れを目立たなくするために上から床維持剤を重ね続ける。
- エ. 建材の種類に関係なく同一手順で作業する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。清掃は単なる美観維持だけでなく、衛生的環境の確保と建材保全にも関係する。
- イ：誤り。清掃の目的は光沢だけに限定されない。
- ウ：誤り。汚れを適切に除去してから維持管理する必要がある。
- エ：誤り。建材特性に適合した方法を選ぶ必要がある。

総合解説：厚生労働省は、建築物の用途・使用状況・劣化状況・建築資材等を考慮して清掃を実施することを求めている。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0002 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：基礎

日常清掃の説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 半年に1回だけ実施する大規模洗浄をいう。
- イ. 日常的に使用され汚れやすい箇所を中心に、清潔保持のため継続的に行う清掃である。
- ウ. 設備更新時だけ実施する清掃をいう。
- エ. 廃棄物を処理せず室内に集積する作業をいう。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。これは日常清掃ではない。
- イ：正しい。日常清掃は日々の使用で発生する汚れを継続的に除去する。
- ウ：誤り。日常清掃は継続的に行う。
- エ：誤り。廃棄物は適切に処理する。

総合解説：日常清掃と定期清掃は役割が異なり、両者を組み合わせて建築物の清潔を維持する。
対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0003 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：基礎

清掃方法を選定する際の基本的な考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 汚れの種類に関係なく最も強い薬剤を使う。
- イ. 建材の特性を確認せず剥離剤を使用する。
- ウ. 汚れの種類と付着状態、建材の特性を確認し、必要以上に建材を傷めない方法を選ぶ。
- エ. 汚れは除去せず床維持剤で覆う。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。建材損傷や安全上の問題を生じる。
- イ：誤り。適合性確認が必要である。
- ウ：正しい。汚れと建材の双方に適した方法を選択する。
- エ：誤り。汚れを取り込む原因となる。

総合解説：清掃では汚れの性状と建材適合性を確認し、機械的・化学的方法を適切に組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0004 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：標準

床面に砂じんや綿ぼりなどの遊離した乾いた汚れが多い。最初の作業として最も適切なのはどれか。

- ア. 直ちに大量の水を散布する。
- イ. 剥離剤を全面に塗布する。
- ウ. 床維持剤を塗布して固定する。
- エ. ダストモップや真空掃除機などで除じんする。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。乾いた汚れを泥状化させる可能性がある。
- イ：誤り。床維持剤の剥離が目的でない限り不要である。
- ウ：誤り。汚れを床面に封じ込める。
- エ：正しい。遊離した乾式汚れは、まず除じんによって回収するのが合理的である。

総合解説：乾式汚れは乾式清掃で先に除去し、その後必要に応じて洗浄へ移る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0005 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：標準

床面に付着して通常の除じんでは除去できない汚れがある。適切な考え方はどれか。

- ア. 床材と汚れに適合する洗剤・機械作用を選び、必要範囲を洗浄する。
- イ. 汚れの性質に関係なく金属刃で削り取る。
- ウ. 何も確認せず強アルカリ剤を高濃度で使う。
- エ. 汚れを残したまま床維持剤を重ねる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。固着汚れは、建材を傷めない範囲で洗浄作用を利用して除去する。
- イ：誤り。床材を損傷するおそれがある。
- ウ：誤り。建材適合性と希釈条件の確認が必要である。
- エ：誤り。仕上がりと耐久性を損なう。

総合解説：清掃では洗剤の種類・濃度、作用時間、機械力、温度などを適切に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0006 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：標準

清掃用モップやクロスを汚染度に応じて区域別に使い分ける主な理由はどれか。

- ア. 器具の購入数を必ず減らすため。
- イ. 汚れや微生物を別区域へ持ち込む交差汚染を抑えるため。
- ウ. 洗剤を使わなくてもよくするため。
- エ. 作業記録を不要にするため。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。目的は衛生管理である。
- イ：正しい。厚生労働省は汚染度を考慮した区域ごとの使い分けを求めている。
- ウ：誤り。必要に応じた洗浄は別途必要である。
- エ：誤り。作業管理とは別問題である。

総合解説：トイレ等の高汚染区域と一般区域で用具を共用しないなど、ゾーニングは交差汚染防止に重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0007 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：基礎

日常清掃で発生した廃棄物の取扱いとして最も適切なのはどれか。

- ア. 清掃後は廊下に長期間仮置きする。
- イ. 種類に関係なく全て同一容器へ投入する。
- ウ. 関係法令に従い、分別・収集し、衛生的かつ適切に処理する。
- エ. 排水口へ流して処理する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。衛生・安全上不適切である。
- イ：誤り。必要な分別を行う。
- ウ：正しい。清掃で発生した廃棄物も適切な分別・処理が必要である。
- エ：誤り。詰まりや水質汚染の原因となる。

総合解説：清掃作業には廃棄物管理も含まれ、衛生的・効率的に速やかに処理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0008 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：標準

床材表面が摩耗・劣化している区域を清掃する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア. 新品と同じ条件で強い研磨を行う。
- イ. 劣化を隠すため汚れを残して床維持剤を厚塗りする。
- ウ. 劣化状態は清掃方法に影響しない。
- エ. 劣化状態を確認し、過度な機械作用や不適合な薬剤を避けて方法を調整する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。損傷を拡大する可能性がある。
- イ：誤り。根本的な管理にならない。
- ウ：誤り。厚生労働省は劣化状況も考慮事項としている。
- エ：正しい。劣化状況も清掃計画に反映する。

総合解説：清掃は建材保全の一部であり、劣化した仕上げ材へ過大な物理・化学作用を与えないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0009 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：標準

清掃後の品質評価として最も適切なのはどれか。

- ア. 汚れの除去状況、安全性、仕上がり、再汚染の有無などを確認し、必要に応じて改善する。
- イ. 作業を実施した事実だけで品質評価を終了する。
- ウ. 床面が濡れたままでも光沢があれば合格とする。
- エ. 苦情が出るまで点検しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。実施状況を定期的に点検し、必要に応じ措置を講じる。
- イ：誤り。結果の確認が必要である。
- ウ：誤り。転倒リスク等の安全確認が必要である。
- エ：誤り。定期的な点検が必要である。

総合解説：清掃管理は計画、実施、点検、改善の循環で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0010 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：標準

洗浄後の床面を十分にすすがず、汚水や洗剤分を残した場合に起こりやすい問題はどれか。

- ア. 必ず床材の耐久性が向上する。
- イ. 残留成分が再汚染やべたつき、仕上がり不良の原因になる。
- ウ. 床維持剤の密着が必ず改善する。
- エ. 清掃回数を永久にゼロにできる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。残留は望ましくない。
- イ：正しい。洗剤や汚水の残留は再汚染の原因となり得る。
- ウ：誤り。残留洗剤は密着不良の原因となり得る。
- エ：誤り。継続管理は必要である。

総合解説：洗浄では汚れを浮かせるだけでなく、汚水回収と必要なすすぎ・乾燥まで完了させることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0011 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：応用

玄関床に砂じん、泥汚れ、部分的な油性汚れが混在している。効率と建材保護を両立する作業順として最も適切なものはどれか。

- ア. 砂じんを残したまま高速で床磨き機をかける。
- イ. 全ての汚れに同じ高濃度剥離剤を使う。
- ウ. まず砂じん等を除じんし、その後に床材へ適合する方法で泥・油性汚れを必要範囲から洗浄する。
- エ. 汚れを除去せず床維持剤だけ塗る。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。研磨傷の原因となる。
- イ：誤り。汚れと建材に応じた方法選択が必要である。
- ウ：正しい。遊離汚れを先に除去し、固着汚れは性質に応じて処理する。
- エ：誤り。汚れを封じ込める。

総合解説：複合汚れでは乾式除じん→局所処理→必要な湿式洗浄のように、汚れの性質に応じて段階的に作業する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0012 清掃の基礎 > 清掃の目的・汚れの性質 | 難易度：応用

新しい床仕上材を採用した建物で、清掃担当者が従来と同じ洗剤・パッドを使用しようとしている。最も適切な対応はどれか。

- ア. 従来の方法を無条件で継続する。
- イ. 最も研磨力の強いパッドを標準にする。
- ウ. 洗剤濃度を常に最大にする。
- エ. 床材メーカーの仕様や材質特性を確認し、適合する洗剤・機械・パッドへ作業手順を見直す。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。新しい床材に不適合な可能性がある。
- イ：誤り。床材損傷の危険がある。
- ウ：誤り。適正濃度で使用する必要がある。
- エ：正しい。建築資材の特性に適合した清掃方法を選ぶ必要がある。

総合解説：清掃手順は固定ではなく、建材・汚れ・使用状況・劣化状態の変化に応じて更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0013 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：基礎

弾性床材の代表例として最も適切なものはどれか。

- ア. ビニル系床タイルやビニルシート。
- イ. 透明板ガラス。
- ウ. 天井用ロックウール吸音板。
- エ. 給水用銅管。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。ビニル系床材はビル清掃で代表的な弾性床材として扱われる。
- イ：誤り。床材ではない。
- ウ：誤り。床材ではない。
- エ：誤り。配管材料である。

総合解説：弾性床は日常除じん、表面洗浄、必要に応じ床維持剤塗布等で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0014 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：基礎

カーペット床の清掃上の特徴として最も適切なものはどれか。

- ア. 乾いたほこりが付着しないため吸塵は不要である。
- イ. 繊維内部にちりやほこりが保持されやすいため、日常的な吸塵と必要に応じたしみ抜き・洗浄が重要である。
- ウ. 全てのカーペットに大量の水を長時間残す。
- エ. 洗剤を使用した場合は残留させるほどよい。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。吸塵は基本作業である。
- イ：正しい。カーペットは吸塵を基本とし、汚れの状態に応じてしみ抜きや洗浄を行う。
- ウ：誤り。材質や施工法に応じた方法が必要である。
- エ：誤り。洗剤分を残留させないことが求められる。

総合解説：カーペットは繊維系床材であり、吸塵・しみ取り・洗浄・乾燥を適切に組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0015 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：基礎

床材に使用する洗剤を選ぶ基本原則として最も適切なのはどれか。

- ア. 材質に関係なく最も強い洗剤を選ぶ。
- イ. 表示された希釈条件を無視する。
- ウ. 床仕上材の材質・表面処理に適合する洗剤を選ぶ。
- エ. 床材の状態確認をせず剥離剤を常用する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。変色・損傷の原因となる。
- イ：誤り。適正な使用・管理が必要である。
- ウ：正しい。厚生労働省は建築資材の特性に適合した洗剤・床維持剤の使用を求めている。
- エ：誤り。必要な場合に限って使用する。

総合解説：洗剤選択では材質、汚れ、pH、濃度、施工状態などを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0016 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：標準

石材やセラミック系などの硬質床を清掃する際の基本的な考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 硬い床なのでどの薬剤・研磨材でも使用できる。
- イ. 目地や表面処理の状態は確認しなくてよい。
- ウ. 汚れがなくても毎回剥離剤を使う。
- エ. 材質や表面仕上げを確認し、傷・変色・目地損傷を生じない洗剤と機械作用を選ぶ。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。硬質床でも化学的損傷や傷が生じる。
- イ：誤り。清掃方法へ影響する。
- ウ：誤り。必要性のない強い処理は避ける。
- エ：正しい。硬質床でも材質や仕上げにより適切な方法は異なる。

総合解説：床の硬さだけで清掃法を決めず、材質・表面処理・汚れの状態を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0017 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：標準

木質系床材の清掃で特に注意すべき考え方として適切なものはどれか。

- ア. 床材の仕様を確認し、過剰な水分や不適合な洗剤で膨れ・変形等を生じないようにする。
- イ. 水を大量に長時間滞留させるほどよい。
- ウ. 材質確認をせず強アルカリ剤を使用する。
- エ. 表面仕上げの有無は清掃方法に影響しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。木質系は仕上げや施工法により水分への耐性が異なるため、仕様確認が重要である。
- イ：誤り。変形や仕上げ劣化の原因となり得る。
- ウ：誤り。適合性確認が必要である。
- エ：誤り。清掃方法へ大きく影響する。

総合解説：木質床では水分管理と表面仕上げへの適合性が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0018 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：標準

弾性床に床維持剤を使用する際の適切な管理はどれか。

- ア. 汚れを確認せず毎日厚く重ね塗りする。
- イ. 塗布状態を点検し、必要に応じて再塗布や部分補修を行う。
- ウ. 床材との適合性を確認しない。
- エ. 剥離作業後も汚水を残したまま塗布する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。汚れの封じ込みや過剰塗膜の原因となる。
- イ：正しい。床維持剤は状態を確認しながら維持管理する。
- ウ：誤り。建材特性へ適合させる必要がある。
- エ：誤り。洗浄・回収・乾燥を適切に行う。

総合解説：床維持剤は床材を保護し美観を維持するが、適正な塗膜管理と洗浄が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0019 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：標準

カーペットに局所的なしみが発生した。最も適切な初期対応はどれか。

- ア. しみの種類に関係なく剥離剤を使用する。
- イ. 全面を強く研磨する。
- ウ. しみの種類とカーペット材質を確認し、適合するしみ抜き方法を必要範囲に行う。
- エ. 洗剤を大量に残留させる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。カーペット用の処理ではない。
- イ：誤り。繊維を損傷する。
- ウ：正しい。しみの識別と材質への適合性確認が基本である。
- エ：誤り。残留を避ける必要がある。

総合解説：カーペットのしみ抜きは、しみの識別、適合薬剤、局所処理、すすぎ・乾燥を意識する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0020 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：標準

同じ汚れでも床材Aでは問題なく落ちた洗剤を、別材質の床材Bへ使用する場合の適切な判断はどれか。

- ア. Aで使えたのでBでも必ず安全とみなす。
- イ. 濃度を上げれば材質差を無視できる。
- ウ. 床材メーカーの情報は確認しない。
- エ. 床材Bへの適合性を改めて確認し、必要に応じて目立たない箇所試験してから使用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。材質によって反応が異なる。
- イ：誤り。損傷リスクを高める。
- ウ：誤り。重要な判断材料である。
- エ：正しい。異なる建材へ同じ薬剤を無条件で転用しない。

総合解説：建材別清掃では、汚れ除去力だけでなく仕上材への影響を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0021 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：応用

改修工事で共用廊下の床材がビニル系から別の仕上材へ変更されたが、清掃仕様書は旧床材のままである。最も適切な対応はどれか。

- ア. 新床材の仕様・推奨清掃法を確認し、洗剤、パッド、床維持剤、作業周期を再設計する。
- イ. 旧仕様を無条件に継続する。
- ウ. 最も強い剥離剤を標準採用する。
- エ. 日常清掃を中止する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。建築資材の変更は清掃計画・手順書へ反映する必要がある。
- イ：誤り。新床材を損傷する可能性がある。
- ウ：誤り。適合性確認が必要である。
- エ：誤り。清潔保持は継続する。

総合解説：清掃計画は建築物の用途・使用状況・建築資材等の変化に合わせて見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0022 清掃の基礎 > 建材・床材の性質 | 難易度：応用

異なる床材が連続するエントランスで、同一の油性汚れが両方に付着した。最も適切な対応はどれか。

- ア. 汚れが同じなら全床材へ同じ最大濃度の薬剤を使う。
- イ. 汚れは同じでも床材ごとに適合する洗剤・パッド・作用時間を確認して処理する。
- ウ. 硬い床側で安全なら柔らかい床側でも必ず安全である。
- エ. 床材の違いを考慮せず全面剥離する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。材質損傷の危険がある。
- イ：正しい。清掃方法は汚れだけでなく建材特性にも依存する。
- ウ：誤り。材質差を無視している。
- エ：誤り。過剰処理となる。

総合解説：適切な清掃は『汚れの性質×建材の性質』で方法を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0023 清掃の基礎 > 清掃計画・作業管理 | 難易度：基礎

建築物の年間清掃作業計画を作成する際の考慮事項として最も適切なのはどれか。

- ア. 清掃会社の都合だけで決める。
- イ. 床面積だけを唯一の判断材料とする。
- ウ. 建物用途、使用状況、劣化状況、建築資材等を考慮する。
- エ. 建材の種類は考慮しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。建物条件を考慮する必要がある。
- イ：誤り。用途や汚染状況等も重要である。
- ウ：正しい。厚生労働省の維持管理要領で示される基本事項である。
- エ：誤り。建築資材は清掃方法選定の重要要素である。

総合解説：年間計画と作業手順書を作成し、それに基づいて清掃を実施する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0024 清掃の基礎 > 清掃計画・作業管理 | 難易度：基礎

日常的に清掃を行わない箇所について、汚れの状況を定期点検する頻度として基準に合うものはどれか。

- ア. 5年以内ごとに1回。
- イ. 建物竣工時の1回だけ。
- ウ. 汚れが見えない限り永久に不要。
- エ. 6月以内ごとに1回。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。頻度が不足する。
- イ：誤り。継続的な定期点検が必要である。
- ウ：誤り。定期的に状態を確認する。
- エ：正しい。6月以内ごとに1回、汚れの状況を点検し必要に応じ除じん・洗浄する。

総合解説：家具背後、高所、天井、照明器具、ブラインド等、日常清掃が及びにくい箇所も計画管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0025 清掃の基礎 > 清掃計画・作業管理 | 難易度：標準

建築物清掃業の作業計画・作業手順書の内容と実施状況について、定期点検する頻度として基準に合うものはどれか。

- ア. 3月以内ごとに1回。
- イ. 10年以内ごとに1回。
- ウ. 委託開始時の1回だけ。
- エ. 苦情発生時だけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。作業計画・手順書と実施状況は3月以内ごとに1回点検する基準がある。
- イ：誤り。頻度が不足する。
- ウ：誤り。定期点検が必要である。
- エ：誤り。予防的な定期点検が必要である。

総合解説：計画と実際の作業を定期的に比較し、必要なら手順・頻度・資機材を改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0026 清掃の基礎 > 清掃計画・作業管理 | 難易度：標準

清掃作業手順書を整備する主な目的として最も適切なのはどれか。

- ア. 作業者ごとに任意の方法へ変更するため。
- イ. 作業方法・順序・使用資機材・安全上の注意等を標準化し、品質のばらつきを抑える。
- ウ. 清掃記録を不要にするため。
- エ. 建材の違いを無視するため。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。標準化と逆である。
- イ：正しい。手順書は作業の標準化と品質・安全管理に有効である。
- ウ：誤り。実施記録は別途重要である。
- エ：誤り。建材特性を反映する必要がある。

総合解説：手順書は建物条件や資材変更等に応じて見直し、現場で実行できる内容にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0027 清掃の基礎 > 清掃計画・作業管理 | 難易度：標準

清掃業務を外へ委託した場合の管理として最も適切なものはどれか。

- ア. 委託した時点で発注側の確認は一切不要となる。
- イ. 受託者の氏名や業務範囲を確認しない。
- ウ. 委託範囲等を把握し、受託者から実施状況の報告を受け、基準に適合した方法で行われていることを確認する。
- エ. 品質不良があっても契約期間中は改善を求めない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。実施状況の把握が必要である。
- イ：誤り。委託内容の明確化が必要である。
- ウ：正しい。委託しても管理状況を把握する必要がある。
- エ：誤り。必要な改善措置を講じる。

総合解説：委託管理では契約だけでなく、作業方法・実施状況・改善状況まで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0028 清掃の基礎 > 清掃計画・作業管理 | 難易度：応用

オフィスの一部が24時間稼働のコールセンターへ用途変更され、従来の夜間一斉清掃が難しくなった。最も適切な対応はどれか。

- ア. 旧計画を一切変更しない。
- イ. 利用者がいる時間でも全区域を一斉封鎖する。
- ウ. 日常清掃を中止し半年ごとの清掃だけにする。
- エ. 使用時間帯と汚染状況を再評価し、区域分けや時間帯別作業を組み込んで年間計画と手順書を見直す。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。実施不能や品質低下につながる。
- イ：誤り。建物運用を考慮した計画が必要である。
- ウ：誤り。清潔保持が不十分となる。
- エ：正しい。用途・使用状況の変化を清掃計画へ反映する。

総合解説：清掃計画は建物利用の変化に応じて柔軟に再設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0029 清掃の基礎 > 清掃計画・作業管理 | 難易度：応用

同じ区域で清掃後の汚れ残りが繰り返し発生している。作業者個人への注意だけでは改善しない。次に行うべきこととして最も適切なのはどれか。

- ア. 作業手順、時間配分、資機材、教育、点検結果を確認し、原因に応じて計画と手順を改善する。
- イ. 記録を廃止して問題を見えなくする。
- ウ. より強い薬剤を無条件で使う。
- エ. 点検を停止する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。再発する品質不良は管理システム全体を点検する必要がある。
- イ：誤り。改善機会を失う。
- ウ：誤り。原因分析なしの対処は不適切である。
- エ：誤り。品質管理を放棄することになる。

総合解説：清掃品質管理では計画、教育、実施、点検、是正を一体で運用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0030 清掃の基礎 > 清掃計画・作業管理 | 難易度：標準

昼間のロビーで湿式清掃を行う必要がある。作業管理として最も適切なのはどれか。

- ア. 床を濡らしたまま標識なしで放置する。
- イ. 作業区域を明示し、滑りや転倒を防ぐ標識・区画を設け、乾燥確認後に通常利用へ戻す。
- ウ. 利用者動線を全く考慮しない。
- エ. 乾燥確認前に床維持剤を追加塗布する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。転倒事故の危険が高い。
- イ：正しい。利用者がいる場所では清掃品質と同時に安全確保が必要である。
- ウ：誤り。作業計画へ反映すべきである。
- エ：誤り。仕上がりと安全を損なう。

総合解説：清掃作業計画には作業品質だけでなく、利用者・作業者の安全管理を組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0031 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：基礎

ビニル系などの弾性床の日常清掃として最も基本的な作業はどれか。

- ア. 毎日全面剥離を行う。
- イ. 汚れを残したまま床維持剤を塗布する。
- ウ. ダストモップや自在ぼうき等で砂じん・ほこりを除去する。
- エ. 大量の水を長時間滞留させる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。剥離は必要時の定期的作業である。
- イ：誤り。汚れを封じ込める。
- ウ：正しい。弾性床の日常清掃ではまず遊離した乾式汚れを除去する。
- エ：誤り。床材や下地への影響を考慮する必要がある。

総合解説：弾性床では日常除じんを基本とし、汚れの程度に応じて湿式清掃、表面洗浄、床維持剤管理を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0032 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：基礎

弾性床の表面洗浄で、洗浄後に行うべき作業として最も適切なのはどれか。

- ア. 汚水を床面に残したまま床維持剤を塗る。
- イ. 洗剤を乾燥固着させる。
- ウ. 砂じんを散布して乾燥を早める。
- エ. 汚水を回収し、必要な拭き取り・すすぎを行って十分に乾燥させる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。仕上がり不良の原因となる。
- イ：誤り。再汚染やべたつきの原因になる。
- ウ：誤り。再汚染と傷の原因になる。
- エ：正しい。洗浄した汚れと洗剤分を床面から回収し、仕上げ工程へ進む。

総合解説：床洗浄は洗剤塗布・機械洗浄だけでなく、汚水回収、拭き上げ、乾燥までが一連の工程である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0033 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：基礎

弾性床に床維持剤を塗布する主な目的として最も適切なのはどれか。

- ア. 床材表面を保護し、汚れや摩耗への抵抗性と美観を維持しやすくする。
- イ. 床材内部を完全に防水して永久に清掃不要にする。
- ウ. 汚れを除去せず見えなくするためだけに使う。
- エ. 全ての床材に無条件で使用する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。適切な床維持剤は床材保護と維持管理性向上に役立つ。
- イ：誤り。定期的な清掃・維持は必要である。
- ウ：誤り。適切な前処理が必要である。
- エ：誤り。材質適合性の確認が必要である。

総合解説：床維持剤は適合する床材に適切な厚さで塗布し、状態を点検して再塗布・補修する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0034 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：標準

弾性床の剥離作業を行う主な目的として最も適切なのはどれか。

- ア. 床材そのものを意図的に削り取る。
- イ. 劣化・汚染した古い床維持剤の塗膜を除去し、新たな維持管理ができる状態に戻す。
- ウ. 日常の除じんを代替するため毎日実施する。
- エ. 汚水を床に残すために行う。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。床材損傷を避ける必要がある。
- イ：正しい。剥離は古い塗膜を除去するための作業である。
- ウ：誤り。剥離は高頻度の日常作業ではない。
- エ：誤り。汚水は確実に回収する。

総合解説：剥離は必要性を判断し、剥離剤・パッド・作用時間を適切に管理して床材を傷めないよう行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0035 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：標準

弾性床の剥離作業で転倒事故を防ぐために特に重要な対応はどれか。

- ア. 標識を撤去して人を自由に通行させる。
- イ. 電源コードを通路へ無秩序に這わせる。
- ウ. 滑りやすい作業区域を区画・表示し、適切な滑り止め対策を行う。
- エ. 安全靴や保護具を使わない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。転倒事故の危険が高い。
- イ：誤り。つまずき事故の原因となる。
- ウ：正しい。剥離剤を塗布した床面は滑りやすく、作業者・利用者の安全確保が必要である。
- エ：誤り。作業内容に応じた保護具が必要である。

総合解説：床洗浄・剥離は薬剤と水で滑りやすくなるため、区域管理と作業者の安全装備が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0036 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：標準

硬質床を清掃する際の考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 硬い床なら全て同じ薬剤でよい。
- イ. 硬質床には機械洗浄を一切使用できない。
- ウ. 目地の状態は清掃に無関係である。
- エ. 石材・セラミック等の種類や表面仕上げを確認し、それぞれに適合する方法を選ぶ。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。材質差を無視できない。
- イ：誤り。適切な機械・パッドを選べば使用できる。
- ウ：誤り。目地劣化や汚れも確認する。
- エ：正しい。硬質床でも材質・仕上げによって耐薬品性や傷つきやすさが異なる。

総合解説：硬質床は『硬いから丈夫』と単純化せず、材質・表面処理・目地・汚れの種類を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0037 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：標準

石質系のエントランス床に外部から砂じんが大量に持ち込まれている。床面の傷防止に最も有効な初期対策はどれか。

- ア．入口マット等で持込みを減らし、こまめに砂じんを除去する。
- イ．砂じんを残して高速バフをかける。
- ウ．床維持剤で砂を固定する。
- エ．除じんせず水だけを散布する。

0038 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：標準

床維持剤を使用している弾性床で、歩行部だけ光沢低下と軽微な摩耗が見られる。最も合理的な対応はどれか。

- ア．必ず全床を毎回剥離する。
- イ．全床を直ちに剥離せず、汚れ・塗膜状態を確認し部分補修や再塗布の必要性を判断する。
- ウ．汚れたまま厚く重ね塗りする。
- エ．摩耗部に砂を散布する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。砂粒を残したまま歩行・機械作業すると研磨作用で傷を生じやすい。
- イ：誤り。傷を増やす可能性がある。
- ウ：誤り。汚れを封じ込める。
- エ：誤り。砂泥化し清掃負荷を増やす。

総合解説：予防清掃では汚れを建物内へ持ち込ませないことと、持ち込まれた粒子を早期に除去することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。必要以上の作業となる。
- イ：正しい。状態に応じた部分補修は過剰作業を避ける。
- ウ：誤り。汚れを塗膜内に封じ込める。
- エ：誤り。床面損傷を助長する。

総合解説：床維持管理では日常清掃、表面洗浄、部分補修、剥離を状態に応じて使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0039 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：応用

新設された硬質床について、材質名だけで清掃方法が確定できず、メーカーから専用の維持管理要領が提示されている。最も適切な対応はどれか。

- ア. 既存の弾性床と同じ剥離剤を無条件で使う。
- イ. 清掃を行わず自然劣化に任せる。
- ウ. メーカーの維持管理要領と現場条件を確認し、洗剤・機械・頻度を清掃仕様書へ反映する。
- エ. 最も研磨力の高い方法から試す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。材質適合性が不明である。
- イ：誤り。適切な維持管理が必要である。
- ウ：正しい。材料固有の維持管理要領は重要な判断資料である。
- エ：誤り。損傷リスクが高い。

総合解説：未知の仕上材では、材料情報を確認してから試験施工・標準化することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0040 建材別清掃>弾性床・硬質床 | 難易度：応用

弾性床の表面洗浄後、床維持剤を塗ったところ白濁と密着不良が生じた。洗浄直後に汚水回収が不十分で、床も十分乾燥していなかった。最も妥当な原因はどれか。

- ア. 除じんを行ったこと自体が原因である。
- イ. 床材が弾性床であることだけが原因である。
- ウ. 作業区域を表示したことが原因である。
- エ. 洗剤分・水分が残った状態で塗布したため、床維持剤の塗膜形成が阻害された。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。適切な除じんは必要である。
- イ：誤り。工程不良が主要因である。
- ウ：誤り。安全上必要な措置である。
- エ：正しい。前処理不良は床維持剤の仕上がりに密着性を損なう。

総合解説：床維持剤塗布前は、汚れ・洗剤分を十分除去し、床面を乾燥させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0041 建材別清掃＞弾性床・硬質床 | 難易度：応用

硬質床の黒ずみ除去で、作業者が材質確認なしに強い薬剤と高研磨パッドを併用しようとしている。管理者の指示として最も適切なのはどれか。

- ア. 材質・表面仕上げと汚れを確認し、目立たない場所で適合性を確認したうえで必要最小限の方法を選ぶ。
- イ. 強い薬剤と高研磨パッドを必ず最大条件で使用する。
- ウ. 黒ずみの原因確認をせず剥離を繰り返す。
- エ. 安全データや製品表示を確認しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。化学作用と機械作用の両方が床面損傷へ影響する。
- イ：誤り。過剰作用で損傷するおそれがある。
- ウ：誤り。原因に応じた処理が必要である。
- エ：誤り。薬剤の安全使用に反する。

総合解説：除去力を高めるほどよいのではなく、必要な洗浄力を確保しつつ建材損傷を最小化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0042 建材別清掃＞弾性床・硬質床 | 難易度：標準

通行量の多い弾性床で、全面剥離の回数を増やさず良好な状態を保つ考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 日常清掃を中止して汚れを蓄積させる。
- イ. 日常除じんと部分洗浄・部分補修を適切に行い、塗膜状態を管理する。
- ウ. 汚れの上へ床維持剤を重ね続ける。
- エ. 砂じんを研磨材として利用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。汚染と摩耗を増やす。
- イ：正しい。日常・中間管理を充実させることで過剰な全面剥離を避けやすい。
- ウ：誤り。仕上がりを悪化させる。
- エ：誤り。傷を生じる。

総合解説：予防保全型の清掃は、汚れを早期除去し必要箇所を部分管理することが基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0043 建材別清掃>カーペット | 難易度：基礎

カーペットの日常清掃の基本として最も適切なのはどれか。

- ア. 毎日剥離剤を塗布する。
- イ. 床維持剤を全面塗布する。
- ウ. 真空掃除機等による吸塵で、繊維中のちり・ほこりを除去する。
- エ. 吸塵せず水だけを散布する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。カーペット清掃の方法ではない。
- イ：誤り。一般的な弾性床の管理方法である。
- ウ：正しい。カーペットは日常的な吸塵が基本である。
- エ：誤り。乾式汚れを泥状化させる。

総合解説：カーペットでは歩行で奥へ入り込む前に、日常吸塵で乾式汚れを回収することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0044 建材別清掃>カーペット | 難易度：基礎

カーペット洗浄で洗剤を使用した場合の処理として最も適切なのはどれか。

- ア. 洗剤を繊維に残すほど防汚性が高まる。
- イ. 汚水を回収せず自然乾燥させる。
- ウ. 洗浄後に床維持剤を塗る。
- エ. 洗剤分がカーペットに残留しないように回収・すすぎを行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。再汚染やべたつきの原因となり得る。
- イ：誤り。汚れと洗剤を残留させる。
- ウ：誤り。カーペットには通常用いない。
- エ：正しい。厚生労働省の維持管理要領で明示されている。

総合解説：カーペット洗浄は洗剤作用だけでなく、汚水・洗剤分の回収と十分な乾燥まで含めて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0045 建材別清掃>カーペット | 難易度：基礎

カーペットのしみ抜きで最初に行うべきこととして最も適切なのはどれか。

- ア. しみの種類とカーペットの材質を確認する。
- イ. しみの種類に関係なく強い溶剤を大量に使う。
- ウ. 全面を剥離する。
- エ. しみを広げるよう外側から強く擦り続ける。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。しみの識別により適切な薬剤・方法を選択できる。
- イ：誤り。変色・損傷の危険がある。
- ウ：誤り。カーペットの処理として不適切である。
- エ：誤り。拡散・繊維損傷を避ける。

総合解説：しみ抜きは識別→適合薬剤→局所処理→回収・乾燥の順で慎重に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0046 建材別清掃>カーペット | 難易度：標準

タフテッドカーペットとウiltonカーペットの清掃について最も適切な考え方はどれか。

- ア. 種類に関係なく同一機械・同一条件だけを使用する。
- イ. カーペットの構造・施工法に応じて洗浄機や洗浄方法を選定する。
- ウ. 全てのカーペットを床磨き機の黒パッドで研磨する。
- エ. カーペットには吸塵が不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。材質・構造差を考慮すべきである。
- イ：正しい。JEEDの訓練でもカーペット種類に応じた異なる洗浄法を扱っている。
- ウ：誤り。繊維を損傷する。
- エ：誤り。日常吸塵が基本である。

総合解説：カーペット清掃は素材・製法・敷設方法・汚れの種類を確認して方法を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0047 建材別清掃>カーペット | 難易度：標準

カーペットの湿式洗淨前に十分な吸塵を行う主な理由はどれか。

- ア. 洗淨剤を繊維へ残しやすくするため。
- イ. カーペットを完全防水にするため。
- ウ. 乾いた砂じん・ほこりを先に除去し、洗淨時に泥状化して繊維中へ残るのを抑える。
- エ. しみの種類を判別不能にするため。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。残留は避ける。
- イ：誤り。吸塵にその機能はない。
- ウ：正しい。乾式汚れは湿らせる前に回収の方が効率的である。
- エ：誤り。むしろ状態確認が重要である。

総合解説：カーペット洗淨では前処理の吸塵が仕上がり と洗淨効率へ大きく影響する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0048 建材別清掃>カーペット | 難易度：標準

カーペットを湿式洗淨した後の管理として最も適切なのはどれか。

- ア. 汚水を残したまま家具を直ちに戻す。
- イ. 乾燥前に大量の粉じんを散布する。
- ウ. 洗淨後は換気を止めて湿度を高く保つ。
- エ. 十分に汚水を回収し、換気等により速やかに乾燥させる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。汚染・乾燥遅延の原因となる。
- イ：誤り。再汚染を招く。
- ウ：誤り。乾燥を遅らせる。
- エ：正しい。長時間湿潤状態を避け、再汚染や臭気等のリスクを抑える。

総合解説：カーペット清掃は洗淨完了ではなく、汚水回収と乾燥確認まで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0049 建材別清掃>カーペット | 難易度：標準

カーペットの一部だけに飲料のしみがある。最も合理的な対応はどれか。

- ア. 材質としみを確認して局所しみ抜きを行い、必要な場合に限って範囲を広げて洗浄する。
- イ. 毎回全館のカーペットを交換する。
- ウ. しみの上から床維持剤を塗る。
- エ. しみを確認せず漂白性の強い薬剤を使う。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。局所汚染へ必要最小限の処理を行う。
- イ：誤り。過剰な対応である。
- ウ：誤り。適切な処理ではない。
- エ：誤り。変色の危険がある。

総合解説：局所汚染はしみの種類と材質を確認し、必要範囲を適切に処理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0050 建材別清掃>カーペット | 難易度：標準

カーペット洗浄直後はきれいだが、数日で表面がべたつき汚れやすくなった。最も疑うべき原因はどれか。

- ア. 吸塵を十分に行ったこと。
- イ. 洗剤分のすすぎ・回収が不十分で、繊維に残留している。
- ウ. 洗浄後に十分乾燥させたこと。
- エ. しみの種類を確認したこと。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。適切な前処理である。
- イ：正しい。洗剤残留は再汚染の原因となり得る。
- ウ：誤り。適切な工程である。
- エ：誤り。適切な判断である。

総合解説：洗剤残留を防ぐため、適正濃度・すすぎ・回収・乾燥を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0051 建材別清掃>カーペット | 難易度：応用

ホテルロビーのカーペットで、通路だけ汚れが早く進む。最も適切な管理はどれか。

- ア. 全区域を同じ低頻度でしか清掃しない。
- イ. 汚れが見えなくなるまで洗剤を残留させる。
- ウ. 通行量に応じて吸塵頻度を高め、局所しみ抜きや中間洗浄を組み合わせることで汚れの蓄積を防ぐ。
- エ. 日常吸塵をやめ、年1回の洗浄だけにする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。高通行部の汚れが蓄積する。
- イ：誤り。再汚染を招く。
- ウ：正しい。使用状況に応じた頻度設定が合理的である。
- エ：誤り。日常管理が不足する。

総合解説：カーペット管理では通行量・汚染度に応じて日常吸塵と周期的洗浄を最適化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0052 建材別清掃>カーペット | 難易度：応用

接着施工されたカーペットを湿式洗浄する前に、施工仕様や耐水性が不明である。最も適切な対応はどれか。

- ア. 不明でも最大水量で洗浄する。
- イ. 床材情報を確認せず強溶剤を使う。
- ウ. 乾燥工程を省略する。
- エ. 施工仕様とメーカー情報を確認し、必要なら小範囲で試験してから適切な水量・洗浄法を選ぶ。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。損傷リスクがある。
- イ：誤り。変色・接着不良の危険がある。
- ウ：誤り。長時間湿潤の原因となる。
- エ：正しい。過剰な水分は接着層や下地へ影響する可能性があり、仕様確認が必要である。

総合解説：カーペット洗浄は材質・構造・施工法を確認し、過剰な水分や薬剤による損傷を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0053 建材別清掃>壁面・窓・特殊区域 | 難易度：基礎

窓ガラス洗浄で一般的に使用される用具として最も適切なのはどれか。

- ア. スクイジー。
- イ. 床剥離用黒パッドだけ。
- ウ. 排水管清掃用ワイヤだけ。
- エ. 給水残留塩素測定器。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。JEEDのビルクリーニング訓練でも窓ガラス洗浄にスクイジーを使用する。
- イ：誤り。ガラス洗浄の基本用具ではない。
- ウ：誤り。用途が異なる。
- エ：誤り。水質測定器である。

総合解説：窓ガラス洗浄では洗浄液を均一に広げ、スクイジー等で汚水を回収して拭き残しを防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0054 建材別清掃>壁面・窓・特殊区域 | 難易度：基礎

壁面清掃で最も基本的な考え方はどれか。

- ア. 壁材に関係なく大量の水をかける。
- イ. 壁材・表面仕上げ・汚れの状態を確認し、上部の除じんや必要な洗浄を安全に行う。
- ウ. 高所作業では足場や安全を考慮しない。
- エ. 汚れの種類を確認しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。材質によって損傷する。
- イ：正しい。壁面でも建材特性と高所作業の安全を考慮する。
- ウ：誤り。安全管理が必要である。
- エ：誤り。適切な方法選定に必要である。

総合解説：壁面・高所は日常清掃が届きにくいいため、定期点検と安全な除じん・洗浄を計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0055 建材別清掃＞壁面・窓・特殊区域 | 難易度：標準

トイレ清掃に使用したクロスをそのまま飲食スペースのテーブル清掃へ使用することが不適切な主な理由はどれか。

- ア．クロスの色が変わるから。
- イ．洗剤の消費量が減るから。
- ウ．高汚染区域の汚れや微生物を低汚染区域へ移す交差汚染の危険がある。
- エ．作業時間が短くなるから。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。主な理由は交差汚染防止である。
- イ：誤り。関係しない。
- ウ：正しい。汚染度に応じて区域別に用具を使い分ける。
- エ：誤り。衛生上の不適切性を説明していない。

総合解説：清掃用具は区域別・用途別に識別し、使用後は適切に洗浄・乾燥・保管する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0056 建材別清掃＞壁面・窓・特殊区域 | 難易度：標準

窓ガラスを洗浄する際、下部に水に弱い内装材や電気機器がある。最も適切な対応はどれか。

- ア．周辺確認をせず大量の水を流す。
- イ．電気機器へ直接洗浄水をかける。
- ウ．汚水を床面に放置する。
- エ．作業前に周辺を養生し、洗浄水が流下・飛散しないように管理する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。二次損傷の原因となる。
- イ：誤り。感電・故障の危険がある。
- ウ：誤り。転倒・汚染の原因となる。
- エ：正しい。清掃対象以外の建材・設備を汚損しないよう養生する。

総合解説：窓清掃では対象面だけでなく周辺の養生と汚水管理を含めて計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0057 建材別清掃 > 壁面・窓・特殊区域 | 難易度：標準

照明器具、ブラインド、家具背面、高所壁面などの日常清掃が届きにくい箇所の管理として適切なのはどれか。

- ア. 6月以内ごとに1回、汚れの状況を点検し、必要に応じ除じん・洗浄する。
- イ. 建物竣工後は一切清掃しない。
- ウ. 利用者から苦情が出るまで点検しない。
- エ. 全て毎日剥離剤で洗浄する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。日常的に清掃しない箇所も定期点検の対象である。
- イ：誤り。汚れが蓄積する。
- ウ：誤り。定期管理が必要である。
- エ：誤り。材質・部位に適合しない。

総合解説：高所や家具背面等は清掃漏れが起こりやすいため、定期清掃計画へ明示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0058 建材別清掃 > 壁面・窓・特殊区域 | 難易度：標準

トイレ清掃で交差汚染を抑える考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 便器用クロスで洗面台とドア取手も連続して拭く。
- イ. 比較的清潔な部位から汚染度の高い部位へ進め、用具を区分して使用する。
- ウ. 区域区分を行わず全て同じモップを使う。
- エ. 清掃後の手洗いを行わない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。交差汚染の危険がある。
- イ：正しい。汚染を清潔側へ広げない作業順と用具区分が重要である。
- ウ：誤り。汚染を広げる。
- エ：誤り。衛生管理上不適切である。

総合解説：特殊区域では用具区分、作業順序、手指衛生、廃棄物処理などを手順書に組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0059 建材別清掃 > 壁面・窓・特殊区域 | 難易度：応用

吹抜け上部の窓ガラス清掃を計画している。高所作業となる場合の対応として最も適切なのはどれか。

- ア. 脚立を不安定な台の上へ重ねて使用する。
- イ. 下部を通行自由のまま作業する。
- ウ. 適切な足場・高所作業設備と墜落防止措置を選定し、下部も立入管理したうえで作業する。
- エ. 安全設備を省いて作業時間を短縮する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。転落リスクが高い。
- イ：誤り。落下物事故の危険がある。
- ウ：正しい。高所清掃は作業者の墜落と落下物による第三者災害の双方を防ぐ必要がある。
- エ：誤り。安全確保を優先する。

総合解説：特殊清掃では清掃技術だけでなく、作業高さ・周辺利用状況に応じた安全計画が不可欠である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0060 建材別清掃 > 壁面・窓・特殊区域 | 難易度：応用

建物内で感染症流行時に多数の利用者が触れるドアノブ、手すり、エレベーターボタンの汚染リスクが高まった。清掃管理として最も適切なのはどれか。

- ア. 平常時の頻度を一切変更しない。
- イ. 床だけを増回し接触部位は清掃しない。
- ウ. 用具を全区域で共用する。
- エ. 利用状況とリスクを評価し、高頻度接触部位の清拭頻度や手順を一時的に強化する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。リスク上昇を反映していない。
- イ：誤り。リスク部位の優先順位が不適切である。
- ウ：誤り。交差汚染の危険がある。
- エ：正しい。使用状況の変化に応じて清掃計画を見直す。

総合解説：清掃計画は固定ではなく、利用者数や衛生リスクの変化に応じて重点箇所・頻度を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0061 清掃用資機材 > 真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：基礎

建築物清掃業の登録に必要な物的基準として厚生労働省が示している機械器具の組合せはどれか。

- ア. 真空掃除機と床みがき機。
- イ. 内視鏡と高圧洗浄機だけ。
- ウ. 照度計と風速計だけ。
- エ. 殺鼠剤と噴霧機だけ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。建築物清掃業の登録基準で必要な機械器具として示されている。
- イ：誤り。主に排水管清掃業の機械器具である。
- ウ：誤り。空気環境測定等に関係する。
- エ：誤り。ねずみ昆虫等防除業に関係する。

総合解説：建築物清掃業では真空掃除機と床みがき機が物的登録基準に含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0062 清掃用資機材 > 真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：基礎

真空掃除機の主な用途として最も適切なのはどれか。

- ア. 床維持剤を加熱して塗布する。
- イ. 床面やカーペット等のちり・ほこりを吸引して回収する。
- ウ. 窓ガラスを研磨して削る。
- エ. 給水管の残留塩素を測定する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。真空掃除機の用途ではない。
- イ：正しい。真空掃除機は乾式汚れの除去に用いる代表的な清掃機械である。
- ウ：誤り。用途が異なる。
- エ：誤り。測定機器ではない。

総合解説：真空掃除機は日常除じんやカーペット吸塵で重要な役割を持つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0063 清掃用資機材 > 真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：基礎

床みがき機（ポリッシャー）の一般的な用途として最も適切なのはどれか。

- ア. 空気中のCO₂濃度を測定する。
- イ. 排水管内部を内視鏡撮影する。
- ウ. 適切なブラシやパッドを装着し、床面の洗浄・磨き等を行う。
- エ. 飲料水へ薬品を注入する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。清掃機械ではなく測定器の機能である。
- イ：誤り。排水管清掃用機器の機能である。
- ウ：正しい。床洗浄や剥離、バフ作業等で用途に応じたパッドを使用する。
- エ：誤り。水処理設備ではない。

総合解説：床みがき機は用途・床材・作業内容に応じてブラシやパッドを選定し、安全に操作する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0064 清掃用資機材 > 真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：標準

真空掃除機の吸引力が低下し、排気側から細かなほこりが増えた。最初に確認すべき事項として最も適切なのはどれか。

- ア. 床維持剤の光沢だけを確認する。
- イ. 排水槽の水位を確認する。
- ウ. 洗剤濃度を上げる。
- エ. フィルタの目詰まりや劣化、集じん部の状態を確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。吸引力低下とは直接関係しない。
- イ：誤り。真空掃除機とは無関係である。
- ウ：誤り。機械不調の原因確認にならない。
- エ：正しい。フィルタの目詰まり・老化・劣化は定期点検事項である。

総合解説：清掃用機械は性能低下を放置せず、フィルタ、電源部、タンク等を定期的に点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0065 清掃用資機材>真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：標準

床みがき機に装着するパッドを選ぶ際の考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 床材と作業目的に合った研磨力のパッドを選ぶ。
- イ. 常に最も研磨力の強いパッドを使う。
- ウ. 床材の種類を確認しない。
- エ. 作業目的に関係なく同じパッドを永久使用する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。表面洗浄、剥離、磨き等で適切なパッドは異なる。
- イ：誤り。床材損傷の危険がある。
- ウ：誤り。材質適合性が重要である。
- エ：誤り。用途・摩耗状態に応じて選定・交換する。

総合解説：機械力は洗浄効果を高める一方、過剰な研磨力は床面損傷につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0066 清掃用資機材>真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：標準

コード付き床みがき機を人の通行がある区域で使用する際、最も適切な安全管理はどれか。

- ア. コードをポリッシャーの回転部へ近づける。
- イ. コードを作業者・利用者の動線へ不用意に交差させず、損傷や巻き込みにも注意する。
- ウ. 濡れた接続部を素手で扱う。
- エ. 通路を標識なしで横断させる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。巻き込み・断線の危険がある。
- イ：正しい。電源コードはつまずき、断線、機械への巻き込みを防止するよう管理する。
- ウ：誤り。感電リスクがある。
- エ：誤り。つまずき事故の危険がある。

総合解説：電動清掃機械では作業区域、電源コード、水分、漏電対策等を含めて安全を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0067 清掃用資機材>真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：標準

清掃用機械器具の維持管理として最も適切なのはどれか。

- ア. 故障するまで点検しない。
- イ. 汚水タンクの漏れは放置する。
- ウ. 定期的に機能・損傷・漏れ等を点検し、必要に応じて整備・取替えを行う。
- エ. フィルタの目詰まりを性能向上とみなす。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。予防的点検が必要である。
- イ：誤り。衛生・安全上問題となる。
- ウ：正しい。清掃用機械器具は定期点検と必要な整備が求められる。
- エ：誤り。吸引力低下等の原因となる。

総合解説：清掃品質と安全を維持するには、機械器具を正常な状態に保つことが前提となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0068 清掃用資機材>真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：応用

床みがき機から異常振動と焦げたような臭いが発生した。最も適切な対応はどれか。

- ア. 速度を上げて作業を継続する。
- イ. 水をモーターへ直接かけて冷却する。
- ウ. 異臭だけなら記録せず使用する。
- エ. 直ちに運転を停止し、電源を安全に切って点検・修理が完了するまで使用しない。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。危険を増大させる。
- イ：誤り。感電・故障の危険がある。
- ウ：誤り。異常時は停止・点検が必要である。
- エ：正しい。異常を感じた機械の継続使用は事故や損傷拡大につながる。

総合解説：清掃機械の異常は『止める・隔離する・点検する』を優先し、応急的な無理な継続使用を避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0069 清掃用資機材 > 真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：応用

広い弾性床を定期洗浄する。手作業のみでは時間がかかり、床材は機械洗浄に適合している。最も合理的な選択はどれか。

- ア. 床材・面積・汚れに適合する床洗浄機や床みがき機を選び、作業手順と安全対策を整える。
- イ. 床材を確認せず最大研磨力の機械だけを使う。
- ウ. 機械の取扱教育なしで初めての作業者に任せる。
- エ. 汚水回収工程を省略する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。作業効率と品質を両立するため、適合する機械を選定する。
- イ：誤り。損傷リスクがある。
- ウ：誤り。安全教育が必要である。
- エ：誤り。洗浄後処理が必要である。

総合解説：機械選定では床材、面積、汚染度、作業目的、作業者技能、安全性を総合評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0070 清掃用資機材 > 真空掃除機・床磨き機等 | 難易度：標準

清掃用機械を導入する際の評価として最も適切なのはどれか。

- ア. 購入価格が高いほど必ず最適とする。
- イ. 作業品質、作業時間、安全性、維持管理性、対象建材への適合性を総合して判断する。
- ウ. 作業者教育を不要とする機械だけを選ぶ。
- エ. 床材への影響は評価しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。現場適合性が重要である。
- イ：正しい。機械能力だけでなく運用全体で評価する。
- ウ：誤り。機械ごとの安全教育は必要である。
- エ：誤り。建材保護は重要な評価項目である。

総合解説：機械化は省力化だけでなく、品質標準化や安全性を含めて導入効果を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0071 清掃用資機材＞洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：基礎

濃縮洗剤の使用として最も適切なのはどれか。

- ア. 濃いほど必ず安全で効果的なので原液使用する。
- イ. 目分量だけで毎回濃度を変える。
- ウ. 製品表示や作業手順書で指定された希釈倍率を守る。
- エ. 他の薬剤と無条件で混合する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。過剰濃度は損傷や残留の原因となる。
- イ：誤り。標準化された希釈が必要である。
- ウ：正しい。適正濃度は洗浄性能・安全性・建材保護のため重要である。
- エ：誤り。危険反応の可能性がある。

総合解説：洗剤のpH、用途、希釈倍率、標準使用量を理解し、表示に従って使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0072 清掃用資機材＞洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：基礎

床用剥離剤の主な用途はどれか。

- ア. カーペットの日常吸塵に使う。
- イ. ガラスを乾拭きするために使う。
- ウ. 飲料水の消毒に使う。
- エ. 劣化・汚染した床維持剤の古い塗膜を除去する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。用途が異なる。
- イ：誤り。窓清掃用ではない。
- ウ：誤り。水処理薬品ではない。
- エ：正しい。剥離剤は床維持剤塗膜を除去するために使用する。

総合解説：剥離剤は必要な場面で、床材適合性・濃度・作用時間・安全を管理して使用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0073 清掃用資機材 > 洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：基礎

床維持剤の使用方法として最も適切なものはどれか。

- ア. 床材への適合性と塗膜状態を確認し、必要に応じて適切に塗布・再塗布する。
- イ. 汚れた床へ無制限に重ね塗りする。
- ウ. 全ての床材へ同一製品を使う。
- エ. 乾燥前に次の工程へ進む。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。床維持剤は床材保護と美観維持に用いるが、適合性と状態管理が必要である。
- イ：誤り。汚れを取り込む。
- ウ：誤り。材質適合性が必要である。
- エ：誤り。塗膜形成を損なう。

総合解説：床維持剤は清浄・乾燥した床面に適切に施工し、日常・定期清掃と組み合わせて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0074 清掃用資機材 > 洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：標準

洗剤のpHを確認する主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア. pHだけで全ての洗浄性能が決まるから。
- イ. 洗浄対象の汚れと建材に対する化学的影響を考慮して適切な洗剤を選ぶため。
- ウ. pHが高いほど全床材に安全だから。
- エ. pHは清掃と無関係だから確認不要である。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。界面活性剤等の組成や汚れ、機械作用も影響する。
- イ：正しい。pHは洗剤の性質を示す重要な指標の一つである。
- ウ：誤り。高アルカリが不適合な材質もある。
- エ：誤り。薬剤選定の重要情報である。

総合解説：洗剤選定ではpHだけでなく、用途、濃度、材質適合性、安全データを総合して確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0075 清掃用資機材＞洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：標準

洗剤を指定より高濃度で使用することが不適切な理由として最も適切なのはどれか。

- ア．高濃度では必ず水になるから。
- イ．高濃度では必ず無害化するから。
- ウ．建材損傷、すぎ負荷、洗剤残留、作業者への危険を増やす可能性がある。
- エ．希釈倍率は製品性能と無関係だから。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。化学的に不適切な説明である。
- イ：誤り。むしろ危険性が高まる場合がある。
- ウ：正しい。高濃度ほど必ず洗浄効果が比例して高まるわけではない。
- エ：誤り。指定濃度を守る必要がある。

総合解説：薬剤は必要な効果を得られる適正濃度で使用し、過剰使用を避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0076 清掃用資機材＞洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：標準

異なる清掃薬剤を混合して使用する場合の基本原則として最も適切なのはどれか。

- ア．異臭が出るまで少量ずつ混ぜれば安全である。
- イ．洗浄力を高めるため全ての薬剤を混ぜる。
- ウ．容器表示は確認しなくてよい。
- エ．製品表示や安全データで混合可否を確認し、不明な薬剤は混合しない。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。危険反応を起こす可能性がある。
- イ：誤り。重大な事故につながり得る。
- ウ：誤り。表示とSDSの確認が重要である。
- エ：正しい。薬剤混合は有害ガスや発熱等の危険を生じる可能性がある。

総合解説：清掃薬剤は単独使用を基本とし、混合は明確に認められた場合に限る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0077 清掃用資機材 > 洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：標準

弾性床の剥離作業後、床維持剤を再塗布する前の処理として最も適切なのはどれか。

- ア. 剥離汚水と薬剤分を十分に回収・除去し、床面を乾燥させる。
- イ. 剥離汚水を残したまま塗布する。
- ウ. 乾燥前に厚塗りする。
- エ. 砂じんを散布して床維持剤と混ぜる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。剥離剤残留や水分は塗膜形成不良の原因となる。
- イ：誤り。密着・仕上がり不良を招く。
- ウ：誤り。塗膜不良の原因となる。
- エ：誤り。汚染・傷の原因となる。

総合解説：剥離後は汚水回収、すすぎ、乾燥、床面確認を行ってから床維持剤を施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0078 清掃用資機材 > 洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：標準

清掃薬剤を小分け容器へ移して使用する場合、最も適切な管理はどれか。

- ア. 無表示の飲料用ペットボトルへ入れる。
- イ. 内容物・用途・希釈等が識別できるよう表示し、誤使用を防ぐ。
- ウ. 薬剤名を隠して作業者に推測させる。
- エ. 複数薬剤を同一容器で順次使い残液を混ぜる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。誤飲の重大な危険がある。
- イ：正しい。中身の不明な容器は誤使用や事故の原因となる。
- ウ：誤り。安全管理に反する。
- エ：誤り。混合事故の危険がある。

総合解説：薬剤管理では表示、専用容器、保管場所、SDS、使用記録等を適切に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0079 清掃用資機材＞洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：応用

床洗浄後にべたつきが残り、数日で再び汚れが付着した。指定より高濃度の洗剤を使用し、すすぎも不十分だった。最も妥当な原因はどれか。

- ア. 適正な除じんを行ったこと。
- イ. 床面を乾燥させたこと。
- ウ. 過剰な洗剤が床面に残留し、汚れを付着させやすい状態を作った。
- エ. 作業区域を表示したこと。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。再汚染の原因ではない。
- イ：誤り。適切な工程である。
- ウ：正しい。高濃度使用とすすぎ不足は洗剤残留を招く。
- エ：誤り。安全上必要な措置である。

総合解説：洗浄力だけを求めて濃度を上げず、指定希釈と十分な汚水回収・すすぎを守る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0080 清掃用資機材＞洗剤・剥離剤・床維持剤 | 難易度：基礎

清掃薬剤が誤って作業者の皮膚に付着した。最も適切な初動の考え方はどれか。

- ア. 種類を確認せず別の薬剤で中和する。
- イ. 症状があっても作業を継続する。
- ウ. 事故を記録せず隠す。
- エ. 製品表示・SDSの応急措置に従い、必要な洗浄や医療対応を速やかに行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。反応による危険がある。
- イ：誤り。健康被害を悪化させる。
- ウ：誤り。再発防止のため報告・記録も重要である。
- エ：正しい。薬剤ごとの危険性と応急措置を確認して対応する。

総合解説：薬剤使用では事前に表示・SDSを確認し、保護具と応急措置を理解しておく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0081 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：基礎

清掃用モップやクロスの管理として最も適切なものはどれか。

- ア. 使用後に適切に洗浄・乾燥し、清潔な状態で保管する。
- イ. 濡れたまま密閉容器に長期間放置する。
- ウ. 高汚染区域で使用したまま一般区域へ持ち込む。
- エ. 破損しても交換しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。汚れた用具を放置すると再汚染の原因となる。
- イ：誤り。微生物増殖や臭気の原因となり得る。
- ウ：誤り。交差汚染を招く。
- エ：誤り。必要に応じ整備・取替えを行う。

総合解説：清掃用具は清潔保持、区域別使用、洗浄・乾燥・保管まで含めて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0082 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：基礎

清掃用機械器具の保管庫の管理として最も適切なものはどれか。

- ア. 汚水と清潔な用具を無区分で保管する。
- イ. 整理整頓と清潔を保ち、ねずみ・昆虫等の生息や出入りがないよう管理する。
- ウ. 害虫がいても清掃用具には影響しないので放置する。
- エ. 通路を機械で完全に塞ぐ。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。交差汚染の原因となる。
- イ：正しい。保管庫も定期点検の対象である。
- ウ：誤り。衛生管理上不適切である。
- エ：誤り。安全な出入りを妨げる。

総合解説：機械器具の性能だけでなく、保管環境の清潔・整理・害虫防止も維持管理の一部である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0083 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：基礎

電動清掃機械の作業開始前点検として最も適切なのはどれか。

- ア. 異常音が出るまで点検しない。
- イ. 濡れた手でプラグを確認する。
- ウ. 電源コード、プラグ、機械本体、回転部等に損傷がないか確認する。
- エ. 保護カバーを外したまま運転する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。予防的点検が必要である。
- イ：誤り。感電の危険がある。
- ウ：正しい。始業前に安全上重要な箇所を点検する。
- エ：誤り。安全機能を損なう。

総合解説：作業前点検は故障と労働災害を予防する基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0084 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：標準

剥離剤を使用する床清掃で適切な保護具の考え方はどれか。

- ア. 保護具は作業速度を落とすので使用しない。
- イ. 薬剤のSDSを確認しない。
- ウ. 滑りやすい靴を選ぶ。
- エ. 薬剤の性質と作業内容に応じ、手袋・保護眼鏡・滑りにくい履物等を選ぶ。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。安全確保が優先される。
- イ：誤り。必要な保護具選定に重要である。
- ウ：誤り。転倒リスクを高める。
- エ：正しい。薬剤飛散や皮膚接触、転倒等のリスクに応じて保護具を選定する。

総合解説：保護具は作業ごとのリスクアセスメントに基づき、適切に着用・管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0085 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：標準

利用者が通行する時間帯に床の湿式清掃を行う。最も適切な措置はどれか。

- ア．作業区域を区画し、濡れ床標識を設置して乾燥確認後に開放する。
- イ．標識を置かず自由通行とする。
- ウ．汚水を通路へ流したまま作業を続ける。
- エ．乾燥前に標識を撤去する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。転倒事故を防ぐ基本的な措置である。
- イ：誤り。転倒事故の危険がある。
- ウ：誤り。危険範囲を広げる。
- エ：誤り。安全確認後に開放する。

総合解説：清掃品質だけでなく、利用者動線と転倒防止を作業手順へ組み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0086 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：標準

清掃用薬剤の保管方法として最も適切なのはどれか。

- ア．飲料と同じ棚に無表示で置く。
- イ．製品表示に従い、識別できる容器で、関係者以外が不用意に触れない場所へ保管する。
- ウ．容器を開放したまま保管する。
- エ．薬剤名の表示を剥がす。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。誤飲の危険がある。
- イ：正しい。誤使用・誤飲・漏えいを防ぐ管理が必要である。
- ウ：誤り。漏えい・揮散の危険がある。
- エ：誤り。誤使用の原因となる。

総合解説：薬剤保管は表示、容器、保管場所、アクセス管理を適切に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0087 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：標準

初めて床みがき機を扱う作業者への対応として最も適切なのはどれか。

- ア. 説明なしで直ちに単独作業させる。
- イ. 取扱説明書を読ませず自己流に任せる。
- ウ. 操作方法、危険箇所、コード管理、停止方法等を教育し、必要な実技訓練後に作業させる。
- エ. 異常停止方法は教えない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。事故の危険が高い。
- イ：誤り。標準手順を習得させる必要がある。
- ウ：正しい。清掃機械は適切な取扱教育が必要である。
- エ：誤り。緊急時対応は重要である。

総合解説：機械化は作業効率を高めるが、作業者教育と安全手順が前提となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0088 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：標準

清掃中に利用者が濡れ床で転倒した。管理上最も適切な対応はどれか。

- ア. 作業を続けて事故を記録しない。
- イ. 標識不足を確認しても改善しない。
- ウ. 負傷者より床仕上りを優先する。
- エ. 負傷者対応を優先し、現場を安全化したうえで事故状況を記録し、原因分析と再発防止を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。再発防止につながらない。
- イ：誤り。同様事故を繰り返す。
- ウ：誤り。安全確保が最優先である。
- エ：正しい。人命・安全確保、記録、原因分析、是正を一連で行う。

総合解説：事故時は応急対応だけで終わらず、作業手順や区域管理の改善へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0089 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：応用

営業時間中の商業施設で、剥離剤を使った床剥離と電動床みがき機を使用する。最も適切な作業管理はどれか。

ア. 薬剤・滑り・電源コード・利用者動線のリスクを評価し、区域封鎖、保護具、コード管理、換気等を組み合わせる。

イ. 作業時間短縮のため区域封鎖を省く。

ウ. 薬剤表示を確認せず高濃度で使う。

エ. コードを濡れ床に無造作に放置する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。複数の危険源を総合的に管理する必要がある。

イ：誤り。利用者事故の危険が高い。

ウ：誤り。薬剤事故の危険がある。

エ：誤り。感電・つまずきの危険がある。

総合解説：清掃安全では薬剤、機械、床面、電気、利用者の各リスクを同時に管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0090 清掃用資機材>使用方法・安全管理 | 難易度：応用

同じ清掃現場で軽微なヒヤリハットが繰り返されているが、重大事故には至っていない。管理者の対応として最も適切なのはどれか。

ア. 事故ではないので全て無視する。

イ. ヒヤリハットを記録・分析し、作業手順や教育、区域管理を見直して重大事故の予防につなげる。

ウ. 記録を残さず口頭注意だけで終える。

エ. 安全確認項目を減らして作業速度を優先する。

答え・解説 正答：イ

ア：誤り。再発・重大化の可能性を見逃す。

イ：正しい。軽微な事象から危険要因を抽出し、予防的改善を行う。

ウ：誤り。組織的な改善につながりにくい。

エ：誤り。リスクを高める。

総合解説：清掃作業管理では、事故だけでなくヒヤリハットも改善情報として活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0091 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：基礎

廃棄物処理法における廃棄物の大きな区分として最も適切なのはどれか。

- ア．一般廃棄物と産業廃棄物に区分される。
- イ．家庭廃棄物と建築廃棄物の2種類だけに区分される。
- ウ．可燃物と不燃物だけに区分される。
- エ．資源物と危険物だけに区分される。

0092 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：基礎

産業廃棄物の説明として最も適切なのはどれか。

- ア．事業所から出た廃棄物は例外なくすべて産業廃棄物である。
- イ．事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、法令で定められた種類に該当するものをいう。
- ウ．家庭から出たごみだけを産業廃棄物という。
- エ．再利用できる物はすべて産業廃棄物である。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。廃棄物処理法では、廃棄物を一般廃棄物と産業廃棄物に大別する。
- イ：誤り。法的な基本区分ではない。
- ウ：誤り。分別上の区分であり、法的な大区分ではない。
- エ：誤り。法的な基本区分ではない。

総合解説：建築物内の廃棄物管理では、まず一般廃棄物か産業廃棄物かを適切に判断し、その後に種類・性状に応じた分別、保管、処理を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。事業系一般廃棄物も存在する。
- イ：正しい。事業活動由来のすべての廃棄物が産業廃棄物になるわけではなく、法令で定める種類に該当する必要がある。
- ウ：誤り。家庭ごみは通常、一般廃棄物である。
- エ：誤り。再利用可能性だけで法的区分は決まらない。

総合解説：事業所から出る廃棄物でも、法令上の産業廃棄物の種類に該当しないものは事業系一般廃棄物となり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0093 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：基礎

特別管理廃棄物の説明として最も適切なのはどれか。

- ア. 重量が10kgを超える廃棄物をすべていう。
- イ. 紙くずをすべていう。
- ウ. 爆発性、毒性、感染性などにより人の健康または生活環境に被害を生じるおそれがある廃棄物で、通常より厳格な管理が必要なものをいう。
- エ. 有価物をすべていう。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。重量だけで特別管理廃棄物にはならない。
- イ：誤り。紙くずであることだけでは該当しない。
- ウ：正しい。特別管理一般廃棄物・特別管理産業廃棄物は、その性状に応じて厳格な処理基準が適用される。
- エ：誤り。有価物かどうかとは別の区分である。

総合解説：廃棄物は種類だけでなく、感染性や毒性等の危険性も確認し、必要に応じて特別管理廃棄物として扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0094 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：基礎

建築物内で廃棄物を分別する主な理由として最も適切なのはどれか。

- ア. ごみの量を見かけ上増やすため。
- イ. 収集経路を複雑にするため。
- ウ. すべての廃棄物を同じ処理施設へ送るため。
- エ. 廃棄物の種類や性状に応じた安全・衛生的な収集、保管、再資源化、処理を行いやすくするため。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。分別の目的ではない。
- イ：誤り。効率的な処理を阻害する。
- ウ：誤り。種類に応じた処理が必要である。
- エ：正しい。分別は適正処理と衛生管理の基礎である。

総合解説：厚生労働省の基準は、建築物内の廃棄物を分別し、衛生的かつ効率的な方法で速やかに処理することを求めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0095 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：標準

一般的なオフィスで従業員が使用したティッシュや生ごみなどが発生した。産業廃棄物の法定種類に該当しない場合、原則としてどの区分として扱われるか。

- ア．事業系一般廃棄物として扱われる。
- イ．必ず特別管理産業廃棄物となる。
- ウ．家庭系一般廃棄物として扱う。
- エ．廃棄物処理法の対象外となる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。事業活動に伴う廃棄物でも、産業廃棄物の法定種類に該当しないものは一般廃棄物となる。
- イ：誤り。危険性・種類の要件を満たさない。
- ウ：誤り。発生主体が事業所であるため、通常は事業系一般廃棄物である。
- エ：誤り。不要物として廃棄する以上、廃棄物として適正処理が必要である。

総合解説：建築物清掃では、事業所から出る廃棄物を一律に産業廃棄物とみなさず、法定区分に基づいて判断する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0096 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：標準

事業活動に伴って発生した廃プラスチック製品が不要物として排出された場合の扱いとして最も適切なのはどれか。

- ア．必ず事業系一般廃棄物となる。
- イ．廃プラスチック類として産業廃棄物に該当し得る。
- ウ．使用済みであっても廃棄物ではない。
- エ．必ず感染性廃棄物となる。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。廃プラスチック類は産業廃棄物に該当する。
- イ：正しい。廃プラスチック類は産業廃棄物の法定種類の一つである。
- ウ：誤り。不要物として廃棄する場合は廃棄物となる。
- エ：誤り。感染性は使用状況や汚染状況等で判断する。

総合解説：ビル管理では、容器包装や清掃用品等の材質と発生状況を確認し、適切な法的区分で分別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0097 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：標準

設備修理で事業所から発生した不要な金属部品を廃棄する場合、一般に該当し得る産業廃棄物の種類はどれか。

- ア. 動植物性残さ。
- イ. 家畜ふん尿。
- ウ. 金属くず。
- エ. 一般廃棄物に必ず限定される。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。食品製造等から生じる動植物由来の残さとは異なる。
- イ：誤り。金属部品とは無関係である。
- ウ：正しい。事業活動に伴って生じた金属くずは産業廃棄物の法定種類である。
- エ：誤り。金属くずは産業廃棄物となり得る。

総合解説：廃棄物の種類は見た目だけでなく、材質、発生工程、法令上の区分を確認して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0098 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：標準

事業活動から出た紙くずについて最も適切な説明はどれか。

- ア. すべての事業所の紙くずは必ず産業廃棄物である。
- イ. 紙くずは廃棄物処理法の対象外である。
- ウ. 紙くずは必ず特別管理一般廃棄物である。
- エ. 紙くずは発生した業種等により産業廃棄物となる範囲が限定され、一般のオフィスから出る紙くずは通常、事業系一般廃棄物として扱われる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。業種等の限定がある。
- イ：誤り。不要物として廃棄されれば廃棄物である。
- ウ：誤り。通常の紙くずにそのような危険性はない。
- エ：正しい。紙くずは産業廃棄物の種類に含まれるが、対象業種等に限定がある。

総合解説：事業系廃棄物では、紙くず・木くず等の一部品目に業種等の限定がある点が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0099 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：標準

医療施設の清掃中に、血液が付着した鋭利な注射針が廃棄物中から見つかった。最も適切な対応はどれか。

- ア．素手で触れず、施設の感染性廃棄物の手順に従い、耐貫通性の専用容器等で適切に分別・処理する。
- イ．一般ごみ袋に押し込んで体積を減らす。
- ウ．手で針先を曲げてからポケットに入れる。
- エ．床に置いたまま他の作業者が処理するのを待つ。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。鋭利物は針刺しと感染リスクがあるため、通常ごみと分けて安全に処理する。
- イ：誤り。針刺し事故の危険が高い。
- ウ：誤り。針刺し・感染の危険がある。
- エ：誤り。第三者の事故を招く。

総合解説：感染性廃棄物や鋭利物は一般廃棄物と混合せず、施設の感染管理・廃棄物管理手順に従って取り扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0100 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：標準

廃棄物の分別ミスが頻発している建築物で、改善策として最も適切なのはどれか。

- ア．容器の表示をすべて外して自由に捨ててもらう。
- イ．廃棄物区分ごとに容器や表示を分かりやすく統一し、利用者・作業員へ分別ルールを周知する。
- ウ．廃棄物の種類にかかわらず一つの容器へ集める。
- エ．分別ミスがあっても記録せず放置する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。分別ミスを増やす。
- イ：正しい。識別しやすい表示と教育は分別精度の向上に有効である。
- ウ：誤り。適正処理を困難にする。
- エ：誤り。原因分析と改善ができない。

総合解説：分別は設備だけでなく、表示、配置、教育、点検によって継続的に改善する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0101 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：応用

清掃員が、飲食店から出た生ごみ、廃プラスチック、割れたガラスを同じ袋に入れて回収している。最も適切な評価はどれか。

- ア. 混合すれば処理が必ず簡単になるので適切である。
- イ. 割れたガラスだけを素手で取り出せば十分である。
- ウ. 種類・危険性・処理方法が異なるため、発生段階から適切に分別し、安全な容器で収集する必要がある。
- エ. 廃プラスチックは生ごみと混ぜることで一般廃棄物に変わる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。処理の安全性と効率が低下する場合がある。
- イ：誤り。切創リスクがあり不適切である。
- ウ：正しい。混合すると再資源化や適正処理が難しくなり、割れ物による負傷リスクも高まる。
- エ：誤り。混合によって法的性質が自動的に変わるわけではない。

総合解説：建築物内では発生源分別を基本とし、危険物・鋭利物を安全に扱い、法的区分や処理先に応じて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0102 廃棄物管理 > 廃棄物の種類・分別 | 難易度：応用

オフィス、飲食店、診療所が入る複合用途建築物で廃棄物管理計画を作成する。最も適切な方針はどれか。

- ア. 全テナントの廃棄物を無分別で一括処理する。
- イ. 診療所の鋭利物もオフィスごみと同じ袋に入れる。
- ウ. 飲食店の生ごみを長期間室温で貯留する。
- エ. 用途ごとの廃棄物の種類と危険性を把握し、一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物等を適切に区分して収集経路・保管方法を定める。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。法令・安全・衛生上の問題が生じる。
- イ：誤り。針刺し・感染リスクがある。
- ウ：誤り。腐敗、悪臭、害虫発生の原因となる。
- エ：正しい。複合用途では発生源ごとに廃棄物特性が異なるため、統一ルールと用途別対策の両方が必要である。

総合解説：廃棄物管理計画では用途、発生量、危険性、法的区分、収集動線、保管設備を一体で設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0103 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：基礎

建築物内で発生する廃棄物の収集・運搬・貯留について、厚生労働省の基準に最も合うものはどれか。

- ア. 衛生的かつ効率的な方法により、速やかに処理する。
- イ. できるだけ長期間建物内に滞留させる。
- ウ. 分別せず床面に直接積み上げる。
- エ. 収集経路は利用者動線と必ず交差させる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。分別、収集、運搬、貯留を衛生的・効率的に行い、速やかに処理することが求められる。
- イ：誤り。悪臭や害虫等の原因となる。
- ウ：誤り。衛生的・安全な管理にならない。
- エ：誤り。衛生と安全を考慮して動線を計画する。

総合解説：廃棄物管理では発生から搬出までの滞留時間を抑え、汚染拡大や害虫発生を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0104 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：基礎

廃棄物の収集・運搬設備や貯留設備の管理として最も適切なのはどれか。

- ア. 故障しても使用不能になるまで放置する。
- イ. 定期に点検し、必要に応じて補修、消毒等を行う。
- ウ. 清掃せず汚れを蓄積させる。
- エ. 貯留設備の点検は法律上禁止されている。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。衛生上の支障が出る前に対応する。
- イ：正しい。設備の破損や汚染を放置せず、衛生的に維持する必要がある。
- ウ：誤り。悪臭や害虫発生につながる。
- エ：誤り。定期点検が求められている。

総合解説：廃棄物処理設備も清掃設備の一部として継続的な点検・補修・消毒が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0105 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：基礎

廃棄物の一時保管場所として最も望ましい状態はどれか。

- ア. 常時開放し、風で廃棄物が飛散する状態。
- イ. 排水が漏れて床にたまる状態。
- ウ. 清掃しやすく、廃棄物の飛散・流出・悪臭や、ねずみ・害虫の発生を防げる状態。
- エ. 生ごみを無蓋で長期保管する状態。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。飛散防止が必要である。
- イ：誤り。流出・汚染を防止する必要がある。
- ウ：正しい。保管場所は生活環境への支障を生じないよう衛生的に管理する。
- エ：誤り。悪臭・害虫発生の原因となる。

総合解説：保管場所は清掃性、密閉性、排水、換気、害虫防止、搬出性を考慮して管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0106 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：標準

飲食施設を含む建築物で廃棄物の収集動線を計画する場合、最も適切なのはどれか。

- ア. 清潔な食材搬入動線と完全に共用し、同時に運搬する。
- イ. ごみ袋を開放したまま客席を長時間通過する。
- ウ. 収集回数を減らすため満杯を超えるまで容器に詰め込む。
- エ. 可能な範囲で食品搬入や清潔物の動線と交差を避け、漏出しにくい容器を使用して速やかに搬出する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。交差汚染リスクが高まる。
- イ：誤り。飛散・臭気・汚染の原因となる。
- ウ：誤り。漏出や破袋のリスクが高い。
- エ：正しい。交差汚染と衛生障害を減らす動線計画が重要である。

総合解説：収集動線は建物用途と使用状況を考え、利用者や清潔物への汚染を防ぐよう計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0107 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：標準

大量の生ごみが発生する飲食テナントの廃棄物保管として最も適切なのはどれか。

- ア．密閉性のある容器を用い、清掃・搬出頻度を確保し、腐敗・悪臭・害虫発生を抑える。
- イ．床へ直接山積みにする。
- ウ．容器を洗わず残渣を蓄積させる。
- エ．夏季ほど搬出頻度を下げる。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。水分と有機物が多い廃棄物は腐敗しやすいため、速やかな処理と衛生的な保管が必要である。
- イ：誤り。汚染と害虫発生を招く。
- ウ：誤り。悪臭や微生物増殖の原因となる。
- エ：誤り。高温時は腐敗が進みやすい。

総合解説：食品系廃棄物の保管では、密閉、速やかな搬出、容器清掃、害虫防止が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0108 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：標準

産業廃棄物の保管場所で掲示板等による表示を行う主な意義はどれか。

- ア．利用者に自由に廃棄物を持ち帰らせるため。
- イ．保管場所であること、廃棄物の種類、管理責任等を明確にし、適正管理を行うため。
- ウ．廃棄物を分別せず混合するため。
- エ．保管場所の管理者を不明にするため。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。表示の目的ではない。
- イ：正しい。法令に基づく保管場所表示は、管理責任と保管内容を明確にする。
- ウ：誤り。適正保管に反する。
- エ：誤り。管理者等を明示する方向である。

総合解説：産業廃棄物の保管では、囲い、掲示、飛散・流出防止、害虫防止等の基準を守る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0109 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：標準

液状廃棄物を一時保管する場合、最も適切な容器管理はどれか。

- ア. 蓋のない紙箱に入れる。
- イ. 腐食する容器でも表示があればよい。
- ウ. 内容物に適合し、漏えいしにくい容器を使用し、転倒や流出を防止する。
- エ. 通路中央に置いて転倒しやすくする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。液漏れしやすく不適切である。
- イ：誤り。容器自体の適合性が必要である。
- ウ：正しい。廃棄物の性状に適した容器を用い、漏出・飛散を防ぐ。
- エ：誤り。安全な保管場所を確保すべきである。

総合解説：廃棄物容器は内容物の形状、腐食性、感染性、鋭利性等に応じて選択する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0110 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：標準

感染性廃棄物の保管として最も適切なのはどれか。

- ア. 一般ごみと混合して識別不能にする。
- イ. 針を袋から突き出したまま保管する。
- ウ. 腐敗のおそれがあっても長期保管し続ける。
- エ. 他の廃棄物と区別し、飛散・流出等を防ぐ容器・保管場所で管理し、必要に応じ腐敗防止措置を講じる。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。感染事故や不適正処理につながる。
- イ：誤り。針刺し事故の危険がある。
- ウ：誤り。必要な腐敗防止措置と速やかな処理が必要である。
- エ：正しい。感染性廃棄物は通常の廃棄物より厳格な保管管理が必要である。

総合解説：感染性廃棄物では専用容器、表示、混入防止、飛散流出防止、腐敗防止を徹底する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0111 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：応用

廃棄物保管室で床に汚水がたまり、容器外面に残渣が付着し、ハエが多数発生している。最も適切な改善はどれか。

- ア. 漏出源を是正し、床・容器を清掃・消毒し、排水・密閉・搬出頻度を見直して害虫発生条件を除去する。
- イ. 殺虫剤だけを散布し、汚れや漏出は放置する。
- ウ. 保管室の扉を常時開放して害虫を外へ出す。
- エ. 容器を減らして床へ直接廃棄物を置く。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。汚水・残渣・長期滞留は害虫・悪臭の原因であり、設備と運用の両面を改善する。
- イ：誤り。発生源対策が不足している。
- ウ：誤り。害虫侵入・臭気拡散を招く。
- エ：誤り。衛生状態をさらに悪化させる。

総合解説：廃棄物保管の衛生管理は、清掃、容器管理、排水、害虫防止、搬出頻度を総合的に改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0112 廃棄物管理 > 収集・保管 | 難易度：応用

複合用途建築物で、オフィス紙ごみは少量だが飲食区画の生ごみは大量に発生する。収集計画として最も適切なのはどれか。

- ア. すべての廃棄物を月1回だけ収集する。
- イ. 廃棄物の発生量・腐敗性・臭気・衛生リスクに応じて区分ごとの収集頻度を設定する。
- ウ. 紙ごみが少ないので生ごみの収集も減らす。
- エ. 臭気の強い廃棄物ほど長期間保管する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。生ごみの衛生管理に不適切である。
- イ：正しい。すべての廃棄物を同じ頻度にするのではなく、性状と発生量に応じて設定する。
- ウ：誤り。廃棄物ごとに特性が異なる。
- エ：誤り。速やかな搬出が必要である。

総合解説：廃棄物収集計画は発生量だけでなく、腐敗性、危険性、季節、利用状況まで考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0113 廃棄物管理 > 処理・関連法令 | 難易度：基礎

廃棄物処理法における事業者の基本的責務として最も適切なのはどれか。

- ア. 処理業者に渡せば排出事業者の責任は完全に消滅する。
- イ. 廃棄物は発生した時点で自治体の所有物になる。
- ウ. 事業活動に伴って生じた廃棄物を、自らの責任において適正に処理する。
- エ. 事業者には廃棄物の適正処理責任はない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。委託後も排出事業者責任は残る。
- イ：誤り。そのような原則ではない。
- ウ：正しい。排出事業者責任は廃棄物処理法の基本原則である。
- エ：誤り。法令で責務が定められている。

総合解説：建築物の廃棄物管理では、委託先の選定や処理状況確認を含め、排出事業者責任を理解することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0114 廃棄物管理 > 処理・関連法令 | 難易度：基礎

産業廃棄物の処理を許可業者へ委託した場合の排出事業者責任について最も適切なのはどれか。

- ア. 契約書を作成した瞬間にすべての責任が消える。
- イ. 処理業者の許可内容を確認する必要はない。
- ウ. 最終処分までの処理状況は確認してはならない。
- エ. 委託しても排出事業者の処理責任は変わらず、適正処理に必要な措置を講じる必要がある。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。責任は消滅しない。
- イ：誤り。委託内容に対応する許可等の確認が重要である。
- ウ：誤り。適正処理を確保する観点から確認が重要である。
- エ：正しい。処理業者へ委託しても排出事業者責任は継続する。

総合解説：廃棄物処理を外部委託する場合も、契約、許可確認、マニフェスト等を通じて適正処理を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0115 廃棄物管理 > 処理・関連法令 | 難易度：標準

産業廃棄物管理票（マニフェスト）制度の主な目的として最も適切なのはどれか。

- ア．排出から運搬・処分までの流れを把握し、委託した産業廃棄物が適正に処理されたことを確認する。
- イ．建物の清掃回数を記録するための制度である。
- ウ．一般の清掃作業員の出勤管理を行う制度である。
- エ．廃棄物の重量を隠すための制度である。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。マニフェストは処理過程の追跡・確認に用いられる。
- イ：誤り。産業廃棄物の処理管理制度である。
- ウ：誤り。勤怠管理とは無関係である。
- エ：誤り。適正処理を確認するための制度である。

総合解説：産業廃棄物処理の委託では、マニフェストを適切に運用し処理状況を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0116 廃棄物管理 > 処理・関連法令 | 難易度：標準

産業廃棄物処理の委託先を選定する際、最も適切なのはどれか。

- ア．料金が安ければ無許可でもよい。
- イ．委託する廃棄物の種類と処理内容に対応した許可を有する処理業者であることを確認する。
- ウ．業者名だけ分かれば許可内容は確認不要である。
- エ．不法投棄歴があっても価格だけで選定する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。無許可業者への委託は不適正である。
- イ：正しい。許可内容が委託対象に適合しているか確認することが重要である。
- ウ：誤り。許可の範囲を確認する必要がある。
- エ：誤り。適正処理能力を確認すべきである。

総合解説：排出事業者は適切な処理業者を選び、委託内容を明確化し、処理状況を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0117 廃棄物管理 > 処理・関連法令 | 難易度：標準

処理業者が不適正処分を行った場合の排出事業者について最も適切な説明はどれか。

- ア. 排出事業者は常に一切の責任を問われない。
- イ. 処理業者だけが法令の対象である。
- ウ. 委託基準違反等があれば排出事業者も措置命令等の対象となる可能性がある。
- エ. 不法投棄が発生しても記録を廃棄すれば問題ない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。法令違反や必要な確認不足等で責任を問われる可能性がある。
- イ：誤り。排出事業者にも責務がある。
- ウ：正しい。委託しただけで排出事業者責任が消えるわけではない。
- エ：誤り。適正処理確認が必要である。

総合解説：委託管理では処理業者任せにせず、排出から最終処分まで適正処理を確保する視点が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0118 廃棄物管理 > 処理・関連法令 | 難易度：標準

建築物の廃棄物処理設備を運用する際の考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 建築物衛生法だけ守れば廃棄物処理法は無視できる。
- イ. 自治体ルールは事業所には関係しない。
- ウ. 法令より建物独自ルールを常に優先する。
- エ. 建築物衛生法上の清掃・衛生管理に加え、廃棄物処理法や自治体の分別・処理ルールにも従う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。関係法令をそれぞれ遵守する必要がある。
- イ：誤り。一般廃棄物処理等では自治体ルールも重要である。
- ウ：誤り。独自ルールは法令に適合する必要がある。
- エ：正しい。建築物衛生と廃棄物処理の両方の関係法令を確認する必要がある。

総合解説：廃棄物管理は複数法令・自治体ルールにまたがるため、管理計画へ反映する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0119 廃棄物管理 > 処理・関連法令 | 難易度：応用

ビル管理会社が産業廃棄物処理を委託する際、業者の許可内容を確認せず、契約書も作成せず、処理終了の確認もしなかった。最も適切な評価はどれか。

- ア．排出事業者責任の観点から不適切であり、許可確認、適正な委託契約、処理状況確認等を行う必要がある。
- イ．料金が支払われていれば問題ない。
- ウ．口頭で依頼しただけで全ての法的責任を果たしたことになる。
- エ．処理終了確認は不法投棄を防ぐため禁止されている。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。委託先任せにせず、適正処理を確保する管理が必要である。
- イ：誤り。適正処理の法的要件を満たす必要がある。
- ウ：誤り。適正な委託手続と管理が必要である。
- エ：誤り。むしろ処理状況の把握が重要である。

総合解説：廃棄物処理委託では、適法な処理業者の選定、契約、マニフェスト等の確認を一連の管理として行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0120 廃棄物管理 > 処理・関連法令 | 難易度：応用

大量の廃棄物が出る建築物で、環境負荷低減と法令遵守を両立する方針として最も適切なのはどれか。

- ア．再資源化できる物もすべて混合焼却する。
- イ．発生抑制・再使用・分別・再資源化を進めつつ、残る廃棄物は法令に従って適正に処理する。
- ウ．発生量を減らすため不法投棄する。
- エ．廃棄物記録を残さず処理経路を不明にする。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。資源化の機会を失う。
- イ：正しい。廃棄物削減と適正処理は両立して進める。
- ウ：誤り。重大な法令違反である。
- エ：誤り。適正処理管理に反する。

総合解説：廃棄物管理では、発生抑制や資源循環を進めながら、最終的な処理まで適法性と追跡性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0121 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：基礎

平日の来館者が多いオフィスビルで、エントランスの土砂、ごみ箱のごみ、トイレの汚れが毎日発生している。これらに対する基本的な清掃区分として最も適切なのはどれか。

- ア. 建物改修時だけ行う臨時作業として扱う。
- イ. 6月ごとの大掃除だけで対応し、日々の処理は行わない。
- ウ. 日常清掃の対象として、利用状況に応じて継続的に除じん・ごみ回収・衛生清掃を行う。
- エ. 汚れが固定化するまで清掃せず、まとめて剥離洗浄する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。毎日発生する汚れを改修時まで放置するのは不適切である。
- イ：誤り。大掃除は日常清掃を代替するものではない。
- ウ：正しい。高頻度に発生する汚れは日常清掃で継続的に管理する。
- エ：誤り。汚れを蓄積させると衛生性・美観・建材保全の面で不利である。

総合解説：日常清掃は、建物の通常利用に伴って繰り返し発生するごみ・土砂・衛生汚れ等を継続的に除去する。大掃除や定期清掃とは役割が異なり、使用状況に応じた頻度設定が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0122 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：基礎

建築物環境衛生管理基準における大掃除の実施頻度として適切なのはどれか。

- ア. 10年以内ごとに1回でよい。
- イ. 建物竣工時の1回だけでよい。
- ウ. 汚れが見えない限り永久に不要である。
- エ. 6月以内ごとに1回、定期的かつ統一的に行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。頻度が不足する。
- イ：誤り。継続的な定期実施が必要である。
- ウ：誤り。法定周期に基づく大掃除が必要である。
- エ：正しい。大掃除は6月以内ごとに1回、定期に統一的に実施する。

総合解説：日常清掃に加えて、6月以内ごとの大掃除を実施することで、日常作業では届きにくい箇所も含めて衛生状態を維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0123 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：基礎

日常的に清掃を行わない箇所の清掃管理として適切なのはどれか。

- ア. 6月以内ごとに1回、定期に汚れの状況を点検し、必要に応じて除じん・洗浄等を行う。
- イ. 20年以内ごとに1回点検する。
- ウ. 点検せず、汚れが落下してきたときだけ清掃する。
- エ. 非日常箇所は衛生管理の対象外である。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。厚生労働省の技術上の基準に明記されている。
- イ：誤り。頻度が不足する。
- ウ：誤り。定期点検が必要である。
- エ：誤り。定期的な状態確認が必要である。

総合解説：高所、家具背後、照明器具等の日常清掃が及びにくい箇所も、定期的に汚れを点検し必要な清掃を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0124 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：基礎

建築物の清掃計画として最も適切なのはどれか。

- ア. 建材や用途を無視して全建物で同一手順とする。
- イ. 用途、使用状況、劣化状況、建築資材等を考慮して年間作業計画と作業手順書を作成する。
- ウ. 年間計画を作らず作業者の勘だけで行う。
- エ. 使用状況が変わっても計画を見直さない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。建材・用途に適合した計画が必要である。
- イ：正しい。建物特性に応じた計画と手順書に基づき清掃を実施する。
- ウ：誤り。計画的な品質管理ができない。
- エ：誤り。必要に応じて適切な措置・見直しを行う。

総合解説：清掃品質を安定させるには、対象、頻度、方法、使用資機材、注意事項を計画・手順として明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0125 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：標準

床面の維持管理として最も適切な組合せはどれか。

- ア. 日常除じんをせず、年1回だけ大量の床維持剤を重ねる。
- イ. 床材に関係なく毎日剥離作業を行う。
- ウ. 日常的な除じんを行い、床維持剤の塗布状況や汚れを点検して必要に応じて再塗布・洗浄等を行う。
- エ. 汚れの状態を確認せず予定回数だけ作業する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。汚れを封じ込め品質を悪化させる。
- イ：誤り。過剰作業で床材を傷める。
- ウ：正しい。日常管理と状態に応じた定期作業を組み合わせる。
- エ：誤り。状態点検に基づく適切な作業が必要である。

総合解説：床清掃は日常の除じんと、汚れ・床維持剤の状態に応じた周期的な洗浄・再塗布等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0126 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：標準

カーペット類の維持管理として最も適切なのはどれか。

- ア. 洗剤を大量に残留させるほど品質が高い。
- イ. しみを発見しても次回改修まで放置する。
- ウ. カーペットは日常除じんを行わない。
- エ. 日常の除じんに加え、汚れを点検し、必要に応じてしみ抜きやシャンプークリーニング等を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。洗剤分は十分に除去する必要がある。
- イ：誤り。必要に応じ早期対応する。
- ウ：誤り。日常的な除じんが基本である。
- エ：正しい。日常吸塵と状態に応じた定期的な洗浄を組み合わせる。

総合解説：カーペット清掃では土砂・ほこりを日常的に除去し、局所汚れや全体汚れに応じた方法を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0127 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：標準

大掃除・定期清掃で特に確認すべき箇所として最も適切なのはどれか。

- ア. 家具の背後、階段裏、内壁高所、天井、照明器具、ブラインドなど日常清掃が及びにくい箇所。
- イ. 毎日清掃している入口マットだけに限定する。
- ウ. 屋外の公道だけを対象とする。
- エ. 汚れない机上だけを何度も清掃し他は無視する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。日常清掃で十分に対応しにくい箇所を定期的に点検・清掃する。
- イ：誤り。定期清掃では非日常箇所も対象にする。
- ウ：誤り。建築物内の衛生管理が中心である。
- エ：誤り。汚れの状態と計画に基づき対象を選ぶ。

総合解説：日常清掃で届きにくい場所を定期的に点検することで、汚れの蓄積や設備機能低下を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0128 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：標準

清掃の作業計画・作業手順書の内容と実施状況について、登録基準上の点検頻度として適切なのはどれか。

- ア. 10年以内ごとに1回でよい。
- イ. 3月以内ごとに1回、定期に点検し、必要に応じて適切な措置を講ずる。
- ウ. 計画作成後は一切点検しない。
- エ. 毎日必ず全面改訂しなければならない。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。頻度が不足する。
- イ：正しい。作業計画・手順書と実施状況は3月以内ごとに1回点検する。
- ウ：誤り。実施状況の定期確認が必要である。
- エ：誤り。3月以内ごとの点検と必要な見直しが基準である。

総合解説：計画は作成するだけでなく、実施状況を定期点検し、問題があれば手順や頻度を改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0129 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：標準

建築物の利用者数が急増し、入口・トイレの汚れが従来より早く目立つようになった。最も適切な対応はどれか。

- ア. 年間計画があるので利用状況が変わっても一切変更しない。
- イ. 汚れが増えたので清掃回数を減らす。
- ウ. 使用状況と汚れの発生状況を再評価し、必要に応じて日常清掃の頻度や方法を見直す。
- エ. 清掃を中止して利用者に自己責任で対応させる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。状況変化への対応が必要である。
- イ：誤り。衛生状態を悪化させる。
- ウ：正しい。清掃計画は建築物の使用状況を考慮して設定する。
- エ：誤り。建築物の衛生管理として不適切である。

総合解説：品質管理では固定頻度に固執せず、利用密度、季節、汚れ発生量等に応じて計画を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0130 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：標準

外部委託している清掃で、月例点検のたびに同じ区域の汚れ残りが指摘されている。発注側の対応として最も適切なものはどれか。

- ア. 委託契約中は作業方法に関与せず、契約終了まで放置する。
- イ. 不具合を記録せず、現場作業者個人の判断だけに任せる。
- ウ. 清掃区域を減らして、汚れが確認される場所を評価対象から外す。
- エ. 受託者の作業報告と手順を確認し、原因・是正策を協議して、改善後の実施状況を再確認する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。委託後も実施状況を把握し、必要な改善を求める管理が必要である。
- イ：誤り。記録を残さないと再発原因と改善効果を検証できない。
- ウ：誤り。評価対象から外すことは品質問題の解決にならない。
- エ：正しい。報告・手順・結果を確認し、是正後まで追跡することで委託清掃の品質を管理する。

総合解説：委託清掃では、受託者から実施状況の報告を受け、基準に適合した方法が維持されているか継続的に把握する。不適合が反復する場合は原因分析、手順修正、再確認まで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0131 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：応用

大型商業施設で休日だけ来館者が平日の3倍となり、トイレとフードコートの汚れ・ごみが急増する。最も適切な清掃計画はどれか。

- ア. 来館者数と汚れの発生パターンを踏まえ、休日は巡回・清掃・ごみ回収の頻度を増やし、重点箇所を明確にする。
- イ. 曜日に関係なく最低頻度に固定する。
- ウ. 休日は利用者が多いので清掃を停止する。
- エ. すべての区域を同じ優先度とし、汚れの多い箇所を考慮しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。使用状況に応じた可変的な作業計画が品質維持に有効である。
- イ：誤り。休日の衛生状態が悪化する。
- ウ：誤り。むしろ重点管理が必要である。
- エ：誤り。リスク・利用頻度に応じた重点化が必要である。

総合解説：清掃計画は建物の使用状況や時間帯別負荷を反映し、重点区域へ人員・回数を配分する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0132 清掃品質・衛生管理 > 日常清掃・定期清掃 | 難易度：応用

オフィスの一般執務室、食品売場、トイレを同じ建物で管理する。品質と衛生を両立する方針として最も適切なのはどれか。

- ア. すべての区域で同じモップを洗わずに使い回す。
- イ. 区域ごとの汚染リスクと利用状況に応じて清掃頻度・用具・手順を分け、交差汚染を防ぐ。
- ウ. トイレを清掃した用具で食品売場を続けて清掃する。
- エ. 区域の用途に関係なく同一薬剤を同一濃度で使用する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。交差汚染を招く。
- イ：正しい。用途と汚染特性に応じた区域別管理が必要である。
- ウ：誤り。衛生上不適切である。
- エ：誤り。建材・用途・安全性に応じて選定する。

総合解説：清掃品質は作業回数だけでなく、区域分け、用具管理、手順、交差汚染防止によって確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0133 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：基礎

清掃品質を評価する方法として最も適切なのはどれか。

- ア. 床の光沢だけで建物全体の品質を決める。
- イ. 作業者の自己申告だけで評価する。
- ウ. 清掃後の状態、汚れの残存、作業手順の実施状況、利用者からの苦情等を複数の情報から確認する。
- エ. 苦情がなければ点検を一切行わない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。衛生性や他区域の状態を評価できない。
- イ：誤り。客観的な確認も必要である。
- ウ：正しい。品質は単一指標だけでなく、結果と作業プロセスの両面から評価する。
- エ：誤り。定期点検が必要である。

総合解説：清掃品質評価では、目視、記録、作業実施状況、苦情・再作業等を組み合わせて改善につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0134 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：基礎

清掃記録を残す主な目的として最も適切なのはどれか。

- ア. 作業を実施していなくても実施済みと記録するため。
- イ. 問題が起きたときに記録を破棄するため。
- ウ. 清掃方法を誰にも分からなくするため。
- エ. 実施日、作業内容、担当者等を追跡できるようにし、点検や品質改善の根拠とする。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。記録の信頼性を損なう。
- イ：誤り。原因分析に記録が必要である。
- ウ：誤り。標準化と管理に用いる。
- エ：正しい。記録は実施状況の把握と改善、異常時の原因確認に役立つ。

総合解説：帳簿・作業記録は品質管理の基礎資料となり、実施状況の検証可能性を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0135 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：基礎

清掃品質評価で不適合が見つかった場合の基本対応として最も適切なものはどれか。

- ア. 原因を確認し、必要に応じて作業手順、頻度、資機材、教育等を見直して再発防止を図る。
- イ. 不適合を記録せず隠す。
- ウ. 原因を調べず同じ作業を続ける。
- エ. 利用者からの指摘をすべて無視する。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。評価は改善につなげて初めて品質管理として機能する。
- イ：誤り。再発防止につながらない。
- ウ：誤り。品質不良が繰り返される。
- エ：誤り。苦情も品質情報として活用する。

総合解説：清掃品質管理は計画、実施、点検、改善を継続して回すことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0136 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：標準

トイレの清掃品質評価項目として最も適切なものはどれか。

- ア. 天井裏の配管径だけを評価する。
- イ. 便器・洗面台・床の汚れ、臭気、消耗品、接触面の清潔状態など用途に応じた項目を確認する。
- ウ. 外壁の色だけを評価する。
- エ. 給湯設備の燃焼効率だけを評価する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。トイレ清掃品質の主要項目ではない。
- イ：正しい。区域の用途と衛生リスクに合う評価項目を設定する。
- ウ：誤り。区域の清掃状態を反映しない。
- エ：誤り。清掃品質評価ではない。

総合解説：品質基準は区域ごとに、見た目、衛生性、臭気、安全性、利用者接触面等を具体化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0137 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：標準

清掃品質を目視だけで評価する場合の注意点として最も適切なのはどれか。

- ア. 目視できない汚れは存在しないと考える。
- イ. 目視点検をすれば作業記録は不要になる。
- ウ. 目視では見えない汚染や作業手順の逸脱を把握できないことがあるため、記録や手順確認等も組み合わせる。
- エ. 目視では床のごみも確認できない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。微生物や薬剤残留等は見えない場合がある。
- イ：誤り。記録は実施状況の確認に必要である。
- ウ：正しい。目視は重要だが、品質評価を完全には代替できない。
- エ：誤り。目視で確認できる項目も多い。

総合解説：品質評価は目視、記録、手順、苦情、必要に応じた測定等を組み合わせると信頼性が高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0138 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：標準

同じ区域について『清掃後も臭いが残る』という苦情が繰り返されている。最も適切な対応はどれか。

- ア. 苦情を全て利用者の感覚の問題として無視する。
- イ. 芳香剤を増やすだけで原因確認をしない。
- ウ. 清掃記録を廃棄して原因を追跡できなくする。
- エ. 苦情の時間帯・場所・発生条件を記録し、清掃方法だけでなく排水、廃棄物、換気等の原因も含めて調査する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。継続的な品質情報として調査すべきである。
- イ：誤り。根本原因を隠すだけになる場合がある。
- ウ：誤り。品質改善を妨げる。
- エ：正しい。臭気は清掃不足以外の設備要因もあるため、原因を切り分ける。

総合解説：苦情は品質指標の一つであり、清掃・設備・利用状況を横断して原因分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0139 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：標準

清掃結果は一見きれいだが、作業者がトイレ用モップを食品売場でも使用していた。品質評価として最も適切なのはどれか。

- ア．見た目が良くても交差汚染防止手順に違反しており、品質上の不適合として改善する。
- イ．見た目がきれいなら問題ない。
- ウ．用具は区域を問わず共有するほど効率的なので適切である。
- エ．記録を残さなければ不適合ではない。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。清掃品質は結果だけでなく衛生的なプロセスも含む。
- イ：誤り。衛生リスクを見落とす。
- ウ：誤り。交差汚染防止が必要である。
- エ：誤り。実際の不適切手順が問題である。

総合解説：清掃品質評価では、用具区分、薬剤使用、順序、安全措置など手順遵守も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0140 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：標準

高頻度接触面の汚れが短時間で再発する施設で、品質点検の考え方として最も適切なのはどれか。

- ア．汚れが増えるほど点検回数を減らす。
- イ．利用状況と汚れの再発速度に応じて点検頻度を高め、必要なら清掃頻度も見直す。
- ウ．年1回の点検だけで十分と決めつける。
- エ．点検は行わず苦情発生時だけ対応する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。品質悪化を見逃す。
- イ：正しい。固定頻度ではなく、実態に応じた管理が必要である。
- ウ：誤り。高リスク箇所には不足する場合がある。
- エ：誤り。予防的管理が必要である。

総合解説：品質評価の頻度は建物用途、利用者数、汚染リスク、過去の不適合などを考慮して設定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0141 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：応用

床の再汚染が早く、清掃直後から足跡が残りやすい。記録を確認すると洗剤濃度が手順書より高く、すすぎ不足もあった。最も適切な改善はどれか。

- ア．さらに高濃度の洗剤を使用する。
- イ．すすぎを完全に省略する。
- ウ．洗剤を適正濃度で使用し、必要なすすぎ・汚水回収を徹底して残留洗剤を減らす。
- エ．汚水を床面に乾燥させて固定する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。残留が悪化する。
- イ：誤り。残留洗剤が増える。
- ウ：正しい。洗剤残留はべたつきや再汚染を招くことがある。
- エ：誤り。汚れ・薬剤残留を悪化させる。

総合解説：品質不良は作業結果だけでなく、薬剤濃度、すすぎ、機械操作、用具状態等のプロセスから原因を分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0142 清掃品質・衛生管理 > 清掃品質の評価 | 難易度：応用

建物全体の清掃品質を改善するための仕組みとして最も適切なのはどれか。

- ア．一度作った手順書を永久に変更しない。
- イ．床光沢だけを唯一の品質指標とする。
- ウ．不適合を記録せず担当者個人の記憶だけに頼る。
- エ．区域別チェック、作業記録、定期点検、苦情分析、不適合の是正を組み合わせ、計画へ反映する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。実施状況に応じた改善が必要である。
- イ：誤り。衛生性・安全性等を評価できない。
- ウ：誤り。組織的な改善につながらない。
- エ：正しい。複数の品質情報を循環させて継続改善する。

総合解説：清掃品質は、結果・手順・記録・利用者情報を用いて計画を継続的に改善することで安定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0143 清掃品質・衛生管理 > 作業安全・感染対策 | 難易度：基礎

医療施設の清掃で標準予防策を適用する考え方として最も適切なのはどれか。

- ア. 血液・体液等に接触する可能性を想定し、リスクに応じて手袋などの個人防護具と手指衛生を適切に行う。
- イ. 感染症と診断された患者の部屋だけで手指衛生を行う。
- ウ. 素手で血液を拭き取る。
- エ. 使用した手袋を外した後は手指衛生不要である。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。標準予防策では感染性物質への曝露可能性に応じた防護を行う。
- イ：誤り。標準予防策は全ての患者に対する基本的対策である。
- ウ：誤り。曝露リスクがあり不適切である。
- エ：誤り。手袋使用後も適切な手指衛生が必要である。

総合解説：感染リスクのある清掃では、個人防護具、手指衛生、安全な廃棄物処理を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0144 清掃品質・衛生管理 > 作業安全・感染対策 | 難易度：基礎

医療施設の環境整備として最も適切なのはどれか。

- ア. 全床面へ常時高濃度消毒薬を噴霧する。
- イ. 基本は清掃であり、血液・体液汚染がある場合は汚染局所を清拭除去したうえで必要な消毒を行う。
- ウ. 血液汚染があっても乾くまで放置する。
- エ. 清掃を行わず消毒薬だけ散布する。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。漫然とした広範囲消毒は推奨されない。
- イ：正しい。厚生労働省は一律の広範囲消毒ではなく、清掃を基本として必要箇所を消毒する考え方を示している。
- ウ：誤り。速やかに安全に除去・消毒する。
- エ：誤り。汚れ除去が基本である。

総合解説：感染対策の環境整備は、物理的な清掃を基本とし、汚染状況に応じて適切な消毒を追加する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0145 清掃品質・衛生管理 > 作業安全・感染対策 | 難易度：標準

床の湿式清掃中に利用者が通行する場所で必要な安全対策として最も適切なのはどれか。

- ア. 注意表示を置かず床を見れば分かると考える。
- イ. 通行量が多いほど洗剤液を多く残す。
- ウ. 作業区域を明示し、必要に応じて立入制限や注意表示を行い、乾燥まで転倒リスクを管理する。
- エ. 作業コードを通路中央に伸ばしたまま放置する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。利用者が気付かない可能性がある。
- イ：誤り。滑りやすさを増す。
- ウ：正しい。濡れ床は典型的な転倒要因であり、作業区域管理が必要である。
- エ：誤り。つまずき事故の原因となる。

総合解説：清掃作業では、濡れ床、コード、機械、薬剤など作業が生む危険を予測し、第三者を含めて事故防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0146 清掃品質・衛生管理 > 作業安全・感染対策 | 難易度：標準

清掃薬剤を使用する際の安全管理として最も適切なのはどれか。

- ア. 異なる薬剤を性質不明のまま混合する。
- イ. 濃いほど安全と考え原液を常用する。
- ウ. 容器のラベルを外して別薬剤を入れる。
- エ. 製品表示や安全情報を確認し、指定濃度・使用方法を守り、必要な個人防護具を使用する。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。有害ガス発生等の危険がある。
- イ：誤り。健康障害や建材損傷の原因となる。
- ウ：誤り。誤使用の危険が高まる。
- エ：正しい。薬剤は適正濃度と使用条件を守り、曝露を防ぐ。

総合解説：薬剤事故を防ぐには、表示確認、希釈、換気、PPE、保管、混合禁止事項を遵守する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0147 清掃品質・衛生管理 > 作業安全・感染対策 | 難易度：標準

床みがき機など電動清掃機器を使用する前の点検として最も適切なのはどれか。

- ア. 電源コード、プラグ、機器本体、パッド等に損傷がないか確認し、異常があれば使用を中止する。
- イ. コード被覆が破れていてもテープなしで使用する。
- ウ. 異常音が出ても作業速度を上げる。
- エ. 濡れた手で電源プラグを抜き差しする。

答え・解説 正答：ア

- ア：正しい。機械器具は定期点検し、異常時は整備・取替え等を行う。
- イ：誤り。感電・短絡の危険がある。
- ウ：誤り。故障・事故を悪化させる。
- エ：誤り。感電リスクがある。

総合解説：機械清掃では使用前点検、正しい操作、コード管理、異常時の使用停止が事故防止の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0148 清掃品質・衛生管理 > 作業安全・感染対策 | 難易度：標準

医療施設でドアノブやベッド柵など高頻度接触面を管理する方法として最も適切なのはどれか。

- ア. 目に見える汚れがあっても一切触れない。
- イ. 定期的に清拭し、必要に応じて適切な消毒を行う。
- ウ. 床だけ消毒すれば接触面の清掃は不要である。
- エ. 同じ汚れたクロスで病棟全体を拭き続ける。

答え・解説 正答：イ

- ア：誤り。適切な清掃が必要である。
- イ：正しい。高頻度接触面は手を介した伝播に関与し得るため重点的に管理する。
- ウ：誤り。接触面は重点的な管理対象となる。
- エ：誤り。汚染を拡大する可能性がある。

総合解説：感染対策では清掃を基本とし、高頻度接触面は定期的な清拭と必要な消毒を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0149 清掃品質・衛生管理 > 作業安全・感染対策 | 難易度：応用

医療施設の床に血液が付着し、その近くに使用済み注射針が落ちている。清掃員の対応として最も適切なのはどれか。

- ア. 注射針に再びキャップしてポケットへ入れる。
- イ. 血液を乾いたほうきで広範囲に掃き散らす。
- ウ. 針を素手で触らず専用の耐貫通性容器へ安全に処理し、血液汚染部は適切な防護具を使用して清拭除去後に必要な消毒を行う。
- エ. 手袋を使わず素手で針と血液を同時に処理する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：誤り。リキャップは針刺し事故を招く。
- イ：誤り。汚染を拡大し曝露リスクを高める。
- ウ：正しい。針刺し防止と血液曝露防止を優先する。
- エ：誤り。感染・外傷リスクが高い。

総合解説：鋭利物は安全容器へ、血液・体液汚染はPPEを使用して局所清拭・消毒し、作業後に手指衛生を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0150 清掃品質・衛生管理 > 作業安全・感染対策 | 難易度：応用

感染症患者室を清掃した後、同じ手袋・クロスを交換せずに一般病室のベッド柵を清拭しようとしている。最も適切な対応はどれか。

- ア. 同じ手袋とクロスを一日中使い続ける。
- イ. 手袋を着けていれば手指衛生は永久に不要である。
- ウ. 汚染が見えなければ区域区分を無視する。
- エ. 汚染区域の作業後に手袋・クロスを適切に交換・廃棄または洗浄し、手指衛生を行ってから次の区域へ移る。

答え・解説 正答：エ

- ア：誤り。汚染拡大の原因となる。
- イ：誤り。手袋交換時等に手指衛生が必要である。
- ウ：誤り。感染対策上の手順に従う必要がある。
- エ：正しい。汚染用具や手袋を介した交差汚染を防ぐ必要がある。

総合解説：感染対策を伴う清掃では、清潔から汚染へという作業順序、用具の区域別管理、PPE交換、手指衛生を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04